

『河原林安左衛門日記』(一)

——丹波山国農兵隊親兵組の日記——

高久嶺之介

解題にかえて

ここに紹介する史料は、丹波山国農兵隊親兵組の指導者河原林安左衛門(小源太)の慶応四年(一八六八)正月一〇日より翌明治二年(一八六九)二月二十八日までの「日記」である。「日記」は、墨筆(一部朱筆)にビッシリ書きこまれた縦帳四冊で、各冊毎に日記と金銭出納覚が記されている。縦帳は、四冊とも縦一七センチメートル、横一二・四センチメートルではほぼ統一され、表紙の中央部に四冊とも「日記帳」と記され、各冊表紙の

左下部分に朱筆で「老番」、「貳番」、「三番」、「四番」と記されている。一冊目(「老番」)は、慶応四年正月一〇日より閏四月二十六日まで、二冊目(「貳番」)は、同年閏四月二十九日より九月十八日まで、三冊目(「三番」)は、同年九月二十五日より翌明治二年正月二〇日まで、四冊目(「四番」)は、同年一月三十一日より二月二十八日までの日記になっている。

「日記」の筆者である河原林安左衛門(小源太)および河原林家について簡単にふれておこう。

河原林安左衛門は、一八二六(文政九)年七月二三日、

丹波国桑田郡山国郷大野村（現京都府北桑田郡京北町字大野）の名主の家柄に生まれた。父安兵衛。一八四九（嘉永二）年四月には同郡中地村吉田儀右衛門娘はつを娶っている。⁽¹⁾近世の河原林家については岡光夫氏の研究がある。岡氏の研究によれば、河原林家の出自は、江戸時代初頭、中世の為国名の河原林家の名跡が絶え、国真名の林家の分家が河原林家の名跡を継ぎ、さらにその分家が本家の名跡を継いだのが河原林家の祖先である。当家は延享年間より庄屋をつとめ、それ以降明治に至るまで当家の当主は一度は庄屋、年寄などの村役人になっている。石高保有状況も延宝当時無高であったが、一八三五（天保六）年の頃には三四石で村内第一位の地位にあった。そして当家も山国郷の山林地主の例にもれず判株商人として林業経営を行っている。当家が雇用している林業労働者数は、一八四七（弘化四）年段階で三二人である。このような林業経営の一方、安左衛門の代の一八五二（嘉永五）年には絞油業を始めている。

安左衛門には、二男六女があり、⁽³⁾長男が幼名喜間太と河原林義雄である。河原林義雄は、⁽⁴⁾明治以後、府会議員となり自由民権運動にも参加し、明治二〇年代京都府政界の一方の雄となり、衆議院議員にもなった人物である。義雄の代にも山林所有は拡大し、一八八一（明治一四）年時の地租納入額は、北桑田郡で第五位の位置にあった。

河原林安左衛門は豪放な性格の人であったらしく、このような気質と名主の家柄および富裕な資産状況が山国農兵隊親兵組の指導者となった理由であろう。安左衛門は明治初頭に家督を長男義雄に譲って退隠し、一九〇二（明治三五）年三月二九日、京都市上京区堀川下立売の義雄の寓居で死去している。

丹波山国農兵隊に関する研究は、一九〇六（明治三九）年に永井登『丹波山国隊誌』⁽⁵⁾が刊行されているが、本格的な研究は、一九六六（昭和四一）年刊行された水口民次郎『丹波山国隊史』（宗教法人山国護国神社刊、非

売品)、仲村研「山国五社明神宮座の解体過程―丹波山国農兵隊成立史―」(同志社大学人文科学研究所編『社会科学』第九号、一九六八年)、同『山国隊』(学生社刊、一九六八年)である。とりわけ仲村氏の研究は、たんに山国隊の転戦経過のみではなく山国農兵隊がなぜ結成されるにいたったかを、幕末期山国郷の村落社会に内在する問題から解き起こし、山国隊の展開の結果、山国郷村落社会の身分秩序が崩壊していく様を見事に描いたものである。

これらの研究は、いうまでもなく、山国郷の数多くの史料および聞きとり調査をもとに構成されたものであるが、これらの史料の中で一等史料の位置を占めるのは藤野斎『征東于役日誌』である。この史料は、山国農兵隊の指導者藤野斎が「東征」中に書きとめた「陣中日記」をもとに、同人が北桑田郡長辞職後の明治二〇年代前半に新史料を付加して書いたものである。⁶⁾この『征東于役日誌』は、一九八〇年、藤野斎著、仲村研・宇佐美英機編

『征東日誌―丹波山国農兵隊日誌―』として国書刊行会より刊行された(なお同書には、仲村研氏の論稿「山国五社明神宮座の解体過程」が補筆訂正され、「山国農兵隊成立前史」という名称で収録されている)。

このようにして藤野斎の『征東于役日誌』は公刊をみるにいたったが、藤野斎らと因州藩附屬をめぐって対立し、京都に残って仁和寺宮や公家隨從などを工作しつづけた親兵組についての史料は公刊されていない。ここに紹介する『河原林安左衛門日記』は、河原林が親兵組の指導者であっただけに、親兵組の行動の詳細を知りうる唯一の貴重な史料である。

「日記」の大きな流れは次のようになる。

河原林の「日記」は、慶応四年一月一〇日、丹波山国で農兵隊が結成され、隊を二陣に分け、水口市之進、藤野斎がひきいる西軍は山陰道鎮撫使西園寺公望の本営、鳥居五兵衛、河原林安左衛門がひきいる東軍は征東將軍仁和寺宮嘉彰親王の本営に参向のため山国を出発すると

ころからはじまっている。河原林らの東軍は京都にて、その後仁和寺宮本營の後を追って大阪へ向かう。しかし

大阪では、仁和寺宮の宮侍本多帯刀の周旋にもかかわらず、仁和寺宮附属は許されず、また京都にまい戻ることになる。東軍は二隊に分かれ、鳥居ひきいる一隊は淀川を上って京都へ、河原林ひきいる一隊は池田を経由して丹波まわりで京都に向かう。一月二〇日河原林らが京都に入ると、先に帰京していた鳥居らと水口、藤野らの西軍との間で因幡藩附属をめぐる激論が展開されていた。翌二一日河原林ら丹波まわりの者もこの激論に加わることになる。激論の内容は、因幡藩附属を主張する水口、藤野らとあくまで朝廷直属を主張する鳥居、河原林らの対立であった。結局、この対立は水解せず、藤野らは因幡藩附属山国隊として東へ進軍し、鳥居、河原林らは京都に残りながら朝廷直属工作をつづけていくことになる。しかし、その後朝廷直属の工作はことごとく失敗し、明治二年一二月、河原林らは郷里山国に帰ることになる。

「日記」は、一二月二八日郷里山国への「帰国之支度」のところで終わっている。

河原林の「日記」は、藤野『征東于役日誌』と異なり、必ずしも他人の眼にふれることを前提として書いたものではないだけに、意味をとることが難解な箇所が少なくない(ただし「日記」には墨抹や朱抹や挿入がほとんどなく、内容を整理の上書いたことが推定される)。したがって、当初四冊の各冊ごとに解説を加えることを考えたが、繁雑になるため、四冊翻刻後に詳細な解説を加えることにした。読みにくいと思われるが、御了解を得たい。

なお、河原林ら「親兵組」の人名は、藤野著、仲村・宇佐美編『征東日誌―丹波山国農兵隊日誌―』二五六ページに表として掲げられている。この表以外に、たとえば安左衛門の息子喜間太(義雄)など若干の増員はあるが、「日記」を理解する上できわめて必要なものであり、そのまま掲げさせていただく。

親兵組名簿

(◎は名主)

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
西勢太	中久保忠三郎	小島安女	江口丈右衛門	横田松之助	西九兵衛	井上省吾	西善五郎	河原林惠次郎	河原林忠次郎	野尻得三郎	河原林彦三郎	西山彦市	横田惟貞	河原林小源太	鳥居五兵衛	隊員名
		吉田正国	正信				右内	完吾			巖	為忠	定次郎	安左衛門	専学	別名
中江	大野	中江	井戸	下	中江	淮中江	中江	大野	大野	大野	大野	鳥居	下	大野	鳥居	出身村
33	?	25	41	23	56	31	45	42	32	24	24	45	43	43	53	年齢
					主計			播磨	長門	造酒	民部	阿波	河内	大和守	河内守	(通称) (官途名)
		小島久公ノ 次男				京都ノ井上 家(養子)	西善五郎弟									備考

家来 周吉 安兵衛 佐市 和兵衛 栄次郎 安藏
伊助 源兵衛 浅太郎 大兵衛

(辰)展藏

翻刻にあたっての凡例は次の通りである。

- 翻刻にあたって、原文に句読点を付した。
- 異体字・俗字・略字・合字・明白な誤字などは原則として正字の常用字体に改め、変体仮名は現行の字体に改めたが、江・者・茂・而・与・連・々(より)はそのまま用いた。
- 当時の慣用句については逐一注記しなかった。
- 原文中の墨抹は、文字の左側に々々を付し、書き改めた文字のある場合、右横に書き改めた文字を「」で示した。
- 朱筆の文字はへで囲み、朱筆の○、△は右横にへ朱へを入れた。また朱筆傍線は傍線の右横にへ朱へを入れた。
- 金銭出納覚には、墨印や朱印で(金)、(銀)、(兩)、(匁)、(相箇)などの印がある。(兩)、(匁)、(相箇)はすべて墨印、(金)は朱印の場合が多いが、墨印の場合もある。しかし、墨印の場合と朱印の場合とで明確な意味の違いはみう

けられないことから、墨印、朱印の区別はすべて略した。また、(舎)、(改)、(増)、(後)、(兩箇)以外の印はすべて(圃)とした。

- 一 貼紙の部分は「」で囲んで示した。
- 一 編者による校訂は()で囲んで示した。
- 一 欠字・平出は一字あきとした。
- 一 原本で改行している所はそのまま改行したが、翻刻にあたって、一部日付部分で改行したところがある。
- 一 判読不能の文字は、字数の明らかかなものは字数分を□で示し、不明のものは□□で示した。

本史料の翻訳にあたって「日記」の所蔵者である河原林孟夫氏(河原林安左衛門の曾孫)に多大のお世話になった。記して謝意を表したい。

注

- (1) (3) 「大野村戸籍」(大野区有文書)
- (2) 岡光夫「近世山国郷の林業経営」(同志社大学人文科学研究

- 所編『林業村落の史的研究』所収、「ある山林地主の家督相続をめぐって」同志社大学人文科学研究所編『社会科学』一六号。
- (4) 河原林義雄については、拙稿「明治期地方名望家層の政治行動——河原林義雄小伝——」同志社大学人文科学研究所編『社会科学』二二号を参照されたい。
- (5) 永井登のこの著作は、水口民次郎『丹波山国隊史』に附録として収録されている。
- (6) 藤野の『征東千夜日誌』が書かれる経過については、藤野著、仲村・宇佐美編『征東日誌』の「序にかえて」を参照されたい。

(表紙)

慶応四年
日記帳
辰正月十日
〈巻番〉

正月十日。水口、藤野、若代、榎並、難波、西山、辻、西、丹後を帰村。山国名主衆中一統相談之上皆々名主出陣之約定。其夜小嶋豊前之介止宿。翌十一日寄合相談。

十二日出陣。御室宮様江参り候分右弼手ニ別連可申約定。
弥々十二日早朝参り仕度一宮大明神揃ニ而出陣之事。

仁和寺宮様方

鳥居河内守

河原林大和守

組頭

横田河内

西山阿波

河原林播摩

河原林民部

野尻造酒

河原林長門

江口丈右衛門

西 右内

井上省吾

西 主計

小島采女

中久保忠三郎

横田松之助

西 勢太

メ拾六人

家来

周 吉

安兵衛

佐 市

和兵衛

栄二良(次郎)

安 藏

辰 藏

右之者水口氏之下タニテ相別連、周山下村栗尾伝七中飯、
酒肴仕度、田尻村ニテ灯燈付ケ申、梅ヶ畑ニテ小休。酒
肴御室(マ)差本多氏相尋、木こゝ屋ニ而相泊り、右之外大野
村人足貳人、中江村カ老人、下村カ老人送り申候ニ付、
則夜四ツ半時着。翌十三日早朝より本多氏へ河原林、鳥

居、西右内参上。段々示談、引取。本多氏御殿重役相談被成下、大坂表下坂之勘札呉ひ、皆々京都木場迄柁源へ参り、皆々下坂之仕度、又買物等仕候。止宿之事。

十四日。皆々買物。鎗買、陣笠不足之分是又買入、則本多氏御室より七ツ時柁源宅へ御入来。外ニ御供三人。陣笠飯籠相扣へ置、皆々柁源ニ而止宿致候事。

十五日、早朝皆々仕度。下坂発足仕、油小路通り竹田海道、伏見、京橋過所ニ而本多氏御引合被下候ニ付、仁和寺宮様御用舟ニ而都合廿六人上下ニ而下坂。則京橋の大坂淀屋橋松屋卯兵衛ニ而着。皆々止宿。夕飯後早々本多氏、下部老入、仁和寺宮様御本殿へ御届ケニ而御越被成候。夜八ツ時帰宿。皆々止宿之事。

十六日。御本陣重役衆中より本多氏始山国一統御役、尚又御沙汰相待、皆々髪月代、入湯いたし、右本多氏昼後ニ帰宿致シ、今日四条殿兵庫江出陣、且又宇和嶋同所へ出般ニ付御多用故得と重役相談之上可有之約定ニ而御座候。将又今日者仁和寺宮様当十六日御タンシヨ之御日限

ニ付御所様御祝之糺五把、山国組へ本多伊勢之介様より被被下御送りニ相成、皆々下部迄頂戴致、八ツ半時ハ勝手々江遊晚ニ罷出申、夕飯前ニ皆々帰宿。夕飯後早々本多氏御勝手ニ付御供老入御出張被成、夜八ツ半時ニ帰宿之事。

十七日。天氣。早朝本多氏、下部老入、西御堂仁和寺御本陣決着之義御伺ニ御越被成候処へ、本多氏昼前ニ御帰宿。段々御心配被下候得共、何分右仁和寺宮様御役人被仰聞候ハ、何分直々召遣ひ申義難相成、一応京都三上之御役卿江御伺之上ニ無テハ六ヶ敷候間、其儀ニ付本多氏実ニ心配。夫々山国一統之衆中色々大示談仕、中ニ者拔立之仁有之。種々相談致。弥々右人数之内丹波へ参り出張之者取極メ申。丹波行之名前、河原林大和守、西山阿波、河原林長門、江口丈右衛門、中久保忠三郎、右五人、家来三人、都合八人之者、池田之方ハ丹波へ出張。跡之人御用舟ニ而皆々上京。尤明早朝之立別連約定相極り申候。夫々出立之持ニ御座候事。

十八日。早朝右之人数、丹波へ罷越候。十三日之渡し、夫々三国之渡、池田中飯。池田海道吉川小休。妙見山参詣ニ而野間戌屋惣吉宿リ、彼是与致夜五ツ時ニ相成申候。則今朝十三日渡舟役人、今日兵庫へ四条殿、五条殿御出陣之御先触ニ而拙者共へ相尋申候事。

十九日。天氣。右宿ハ人足咄人取羽風中飯。右羽風聞之処、一昨日頃笹山ハ福知江御越ニ付、夫妙見道通り須知みと屋ニ泊リ候処、丹後荷物止宿ニ付相尋候へ者、昨夜者綾部御泊リ之由申、今日ニ而も丹後田辺御越之趣申候処、右宿本之者申候ハ、丸ニ式ツ引之はた、因州藩上京之由申候ニ付、問場へ江口氏、河忠、家来咄人、右之趣篤与相調ニ遣し候処、弥々因州組山国組共人数五拾人斗、一昨日○引之旗相立御登リ之由申候故、則名前為書候処、因州伊王野次郎左エ門、榎並助之進、若代四郎左エ門之三人之名前相印候ニ付、段々相尋候得者、弥々上京之趣ニ付、夫々銘々之者上京之決定ニ相極メ申候事。

廿日。早朝天氣ニ而皆々水戸村へ参リ、園部鳥羽ニ而篤

与聞糺候処、人数三拾人斗上京之由ニ御座候。八木角屋ニ而中飯致、西田村へ渡リ屋賀村、池尻村ハ出雲村出雲坂越、原村小休。水尾村江廻リ嵯峨菊屋ニ而止宿致候。則右同所ニ而今日四条殿始芸州藩桑名へ出陣之沙汰有之候事。

廿一日。早朝大雪降り菊屋ハ御室ニ而小休シ、夫々皆々四ツ半時今出川柁源ニ而皆々着仕候。色々在京之衆中且又丹波ハ上京之衆中大井ニ違談ニ付彼是いたし候由ニ御座候。然ル処丹波路江出陣いたし候衆中と大坂表へ出陣いたし候衆中等彼是違談有之。則水口、藤野之組ハ右因州藩ニ隨身いたし候故、是迄之存意等大違ニ付一切相訳リ不申候間、則水口、藤野組堀川山甚丹清右両家ニ下宿罷在候ニ付、八ツ時ハ河原林大和守、西山阿波、右宿所へ篤与承リ等々参上致候得者、最早今日因州下宿之内新屋敷右組江拝借之約定ニ而皆々内見ニ罷出候。尤当方組横田氏御同道ニ而暮六ツ時山甚へ帰宿。尤若代氏榎並氏御同伴。夫々段々右違談之義相尋申候処、則水口備前守、

藤野近江守、辻彦六始皆々立会ニ而種々承リ候得者、尤因州公之下々と申義ニ而ハ無之候ニ付、段々等拙者組右因州公江同心可致様被仰候得共、何分拙者兩人ニ而者得と御規定申事難相成故、引取一同江相談し、其上御答可申候と申、彼是夜五ツ時帰宿之義ニ而相分連若代同伴ニ而帰宅。道ニ而右若代が段々拙者へ造用雜費之次第御申被成候事。尤夜五ツ時帰宿。廿二日天氣夫が当方組一統段々等示談仕候処、当組一統被申候者決まり而因州下へ付き支配請申義不承知之次第被申、依之如何様之義ニ相成候共外ニ存心無之、何分ニ茂天庭江直々之御奉公可申決心ニ御座候。然ル処横田氏存外之申方甚々一統腹立被致、彼是与夜七ツ時ニ相成大示談いたし、実ニ心配罷在候ニ付、何分国方二ツニ相成候而ハ不被宜候故、何分一統丸々相成兩様ニ願度旨決定ニ相成、且又違心有之候而ハ不被宜候間、横田氏明早朝右之次第御取斗相頼皆々伏可申候事。廿二日。天氣。早天横田氏御使者ニ而水口組へ御出越被下、色々取扱之示談被下候得共、何分相談茂不致因州江

御請申候義不行届之次第如何様共御託可申候得共、一旦因州江申上、尤昨日茂皆留主居重役拜面之義も有之、実ニ心配之由被申、是悲(非)一手ニ而同心可被下様段々被致候故、右横田午刻前ニ当方へ帰宿。夫が種々相談いたし、尤横田氏も先之存寄御披露有之候得共、何分一統聞入無之、何分致方無御座故、尚又八ツ時が鳥居河内守始河原林播磨、横田氏三人、水口氏組江出越被下、何分国元出立之御之通り之人数別連ニ而一所ニ相成兩様共出願可致様之存心ニ而右三人之者御越被下候処、則先方当方内ニ而示談致候義と先方一々申候ニ付、色々等勤考仕候得者、全ハ横田氏先方へ内談を逐被申候由ニ而腹立罷在候処、則若代氏(那)名波氏兩人御出張ニ付、彼是与違心ニ付、論談罷在候処、若代存外之義被申候ニ付、示談相調ひ不申。其儘ニ而皆々帰宿。当方ハ参与役所江出願之義、山科始岩倉山中氏、且又小島豊前之介江参り、右願書認メ之義相頼申、尚又其夜種々一統示談罷在候事。廿三日。天氣。早朝水口氏、辻彦六、右兩人拙者宿へ御入

来。則昨日夕、若代氏ハ河原林、鳥居ハ両家へ詫之書状到來。且又本多氏江若代ハ同様之書状到來ニ付、本多氏者若代へ御越、右水口、辻氏ハ兩人ハ拙者江別段ニ国方之義、且又大借財之義色々御咄し有之、此度之一件義何分ニ茂拙者ハ取押へ一統之衆へ申聞隨身可致様被仰聞候得共、何分爲取替一札ニ而先此度へ兩方ハ願出可申様種々相談申候得者、左候得者拙者申通り爲取替一札ニ而名主一統之別心無之趣ニ而右兩人御引取被成候事。夫ハ横田氏在宿ニ而爲取替一札之下書相認メ被下候。且右参与役所江出願書小島氏江認メ取ニ遣し候處、早々御認メ被下、早速ニ持帰り候ニ付、則鳥居河内守、河原林大和守、西山彦市郎、河原林榮次郎、下来四人、右願書持参ニ而参与役所へ罷出相納申候處、御取次福井又次郎取次ニ而御上へ御取次被下候處、右願書三通相認、早々差出し可申様被仰付、早々引取、鳥居、河惠兩人、小島氏へ右願書御認メ被下候様頼ニ御越被成、河原林、西山兩人者帰宿。然ル處、右願書八ツ半時到來ニ付夫ハ調印。早速ニ鳥居、

西山、尚又参与役所へ願書持参ニ而御越被下、夫ハ横田氏、西山氏兩人者右之爲取替一札之下書相認、水口、藤野組へ持参。則水口氏他行ニ付預り置、跡ハ御答之約定。尤横田、夫ハ勝手ニ旅宿へ御越西氏斗ハ帰宿之事。

廿四日。天氣。皆々私用之事。

廿五日。朝雪降り。天満宮参詣之人有之。然ル処午之刻前ニ小島氏御入来。色々御咄し、御酒差出し、且午半時後御引取。尚又若代氏ハ鱈ハ本爲見舞与被下、早速ニ其塩鱈水口組へ爲見舞与江口氏使者ニ而持参進上。且若代氏蒸菓子ハ菘箱、是又爲見舞与河原林長門持参。使者右兩人共夕方帰宿之事。

廿六日。早朝、鳥居氏右参与役所江出願之次第御尋旁々山科氏へみかん持参ニ而御越被下、御伺被下候處、今一兩日ハ先々御見合ガ宜敷様へ御沙汰ニ而御引取、帰宿。外皆々私用ニ而夫々他行いたし候事。

廿七日。雨天ニ而皆々困り入候處、藤野、辻氏兩人先日之爲取替一札之下書持参ニ而御越被成、本多氏ハ被仰候

執奏家へ差出し申願書持参預り置。皆々勝手ニ他出致候事。

廿八日。天氣。皆々私用致。則小折紙之願書ニ調印致、昼後早々本多氏葉室殿へ御持参被下、則渡辺民部公江右願書相渡、夕方帰宿。則仁和寺宮様大阪表へ御帰京之由ニ而、右本多氏御室江御引取被成候事。

廿九日。雨天ニ而朝々皆々私用ニ而勝手之用趣ニ罷出。尤北野天満宮心願一七日之儘ニ相成、西氏参詣之事。

二日朔日。雨降りニ而私用致居候。則、河原林惠次郎、小島氏へ参り候へ者、右願書之一件ニ付、御沙汰無御座候得者、一応参与役所へ罷出、御沙汰可承様被申候段被申入候ニ付、早速ニ大和守、山科氏へ参上、面談。色々相頼置、夕方ニ帰宿。尤明日者例年之初参会ニ付、河原林惠次郎始喜間太、忠次郎、清三郎、下家来式人外ニ林喜平次、野上長兵衛帰村之相談相定申候事。

二日。天氣。早朝々右八人之衆中出立帰村いたし候事。且又引続若代氏御入来。段々因州公之義御咄し被成、大

亭(ま)之儀ニ御座候ハ、則因州組へ一手ニ相成可申様被申聞候故、色々示談致、何分国方一統和合いたし、且又参与役所出願之義も有之ニ付、先其沙汰有之候迄ハ先々程能因州組江御申置被下度段申入置、然ル処横田氏、辻氏御入来有之処、則横田氏昨夜より新屋敷ニ而御泊リ之由ニ而、若代氏早々帰宅被致候。尤横田氏為取替之義被申、則下書之処、段々相談いたし、尚又其儀今一応新屋敷江示談ニ被参候。且又二条御城内参与御役所へ伺ニ参り度候ニ付、小島氏案内之儀相頼ニ鳥居氏御越被下候処面会。午刻後早々御越可被下様頼置帰宿。則小島氏昼後御入来。夫々小島氏、鳥居氏、西善五郎、家来式人、参与役所へ伺ニ御越被下、然ル処相伺被申候得共、当方御沙汰次第申入候与被仰、依之右之衆中帰宿之上皆々老献差上ケ申、尤肴三、四種進上いたし候。右小島、彼是与夜五ツ時御帰宅之事。

三日。天氣。早朝天満宮御供物頂戴。午之刻小島御息灯燈御返却旁々御入来。御酒肴献差出し、銘々勝手之用向

いたし彼是八ツ半刻ニ小島氏御帰宅被致候事。

四日。天氣。右参与役所之御沙汰相待居得共、致方なく候ニ付、則当初午之義故、河原林民部、西右内、鳥居河内守、西山彦市、家来周吉、佐市、外ニ本多氏昨夕御入来ニ付、是又同道。伏見稻荷大明神へ皆々参詣。則河原林大和守留守番致居、然ル処七ツ時林喜平次国元五ヶ村庄屋衆中馬路河内山半吾呼ニ参り候故、右庄屋衆中御出役ニ而彼是心配之筋有之。依之水口氏、藤野氏、横田氏、西氏、拙者之名前ニ而書状到来。尚又右喜平次早速ニ新屋敷へ右状持参致、藤野氏御面会、早々帰宿之事。五日。雨天。早朝新屋敷河原林、西氏帰宅之義ニ付使差遣し、依之早々水口氏榭源江御入来。右庄屋衆中書状之一件、段々相談仕、弥々帰宅之次第申候処、水口氏ハ三ヶ条之篇等篤与聞糺ニ下村庄屋へ使差遣し候間、其返答相待候間、其次第二而早々帰宅可致。尤明昼午刻迄ニ兩人共帰村可致様、水口氏与約定致、拙者、西氏、家来式人連連午刻ハ帰村仕候。彼是夜五ツ時帰宅仕候事。

則其日村方初参会罷在、尤拙者鳥度罷出申候事。

六日。雨天。床屋彦七ニ而五ヶ村参会之席相動可申約定之処、則彦七病氣ニ付無拠拙者宅ニ而相勤申候。依之五ヶ村庄屋衆中御入来。色々示談仕候。尚明日馬路江出張之約定ニ而夜五ツ時皆々相分連申候事。

七日。天氣中時々雨。彼是四ツ時より出立。則拙者始河原林庄五郎外ニ用向罷在候ニ付、六日夜通し駕入足ニ而出張。林喜平次、比賀江村庄屋佐五郎、庄藤右衛門、辻村佐兵衛、中江村庄屋伊助、西善五郎、下村庄屋新助、家来耆人、国元ハ馬路出張。外ニ京都ハ水口氏、藤野氏、家来ハ四人馬路へ出張。其夜色々示談いたし申候事。

八日。天氣。早朝ハ出張之皆々種々相談致し、彼是山国五ヶ村庄屋衆中役所河内山様江庄屋新助、庄屋佐兵衛兩人御役所へ先達而之一件御伺申候処、何分ニも草木文左衛門御林見ニ差遣し候ニ付、国方一統示談之上、和合可致旨被仰候ニ付右庄屋兩人帰宿仕候。尤御林山江長州預リ之高札三枚御下ケニ相成、右三枚持帰り候前より草木文

左衛門、郷宿市太へ入来。段々西園寺様御供之次第御咄し、且又山国五ヶ村始外村之天領私領之分、馬路郷土之支配ニ相成候様之口達之廻伏、尤入落ニ相成候村々之口達、草木氏預り被置候ニ付、其口達持参ニ而、則下村庄屋新助へ御渡しニ相成候故、下村、辻村庄屋印形持参。今日御済し被下度義、押而河内山へ伺ニ役前へ罷出候得者、何分今日河内山様御上京。且又外之村方茂有之候ニ付、甚々氣之毒ニ存候得共、十一日ニ可罷出与被申、夫々皆々帰村。則高札持参。尤水口氏、藤野氏、家来四人、尚又上京。右御林山一件ニ付、小源太、庄五郎、善五郎、家来老人相残り、右山林之義ニ付小弥太相談致居候所、彦市々呼ニ参り、則庄五郎、小源太兩人、人見彦市へ参り候処、右御林之義ニ付浅次郎が段々承り候ニ付、段々人見七之助与種々内談仕候得者、先々是迄之趣意願書ニ而書出し候様被申、其段承知仕、帰宿之上小弥太段々示談、願書之下書ニ相掛り候。将又人見彦市ニ承り候得者、今日御見分ニ中川藤九郎、人見勘始草木文左エ門、午之刻

後々山国へ出張之由ニ御座候。彼是夕方ニ右之願書出来ニ付、右小弥太与相談之上右之願書中川石見殿へ持参。段々御相談被下候処、明朝趣意書而已ニ而表向御役所江人見彦市殿へ其趣意書差出し可申様被申候。其趣承り承知之事。

九日。上天氣。朝四ツ時、小弥太御入来。夫々趣意書相認相談之上御役所へ河原林庄五郎持参ニ而、右人見彦市殿へ相渡置、午刻後右同人帰宿。夫中川宗兵衛入来。色々米之咄しいたし、彼是八ツ時後ニ相成、依之其日止宿之事。

十日。雨天後大雨降り。早朝山間船ニ而上京之存心ニ参り候処、風雨ニ而船皆々休ミ候ニ付、無抛峯二道へ越シ嵯峨表罷出候処、四ツ半時ニ着仕、天瀧寺内金剛院江小源太、庄五郎、善五郎、家来立寄、長老二面会。段々宿訪之義、則種々相咄し示談仕、右四人之者引取、小野ニ而中飯。七ツ時、今出川榭源へ皆々着仕、色々此度之出張之一件ニ付心配之筋合種々相談、止宿之事。

十一日。風雪降りニ而早朝皆々示談致、四ツ時（余）本多氏

大和守右式人、則岩倉殿内樹下石見守御旅宿へ参り面会。

右因州公（余）被仰候書付之義、段々元来之次第申込、且又

昨夕本多（余）頼置候処、同刻御返答願上候得者、尤其由承

知ニ而中将様へ御内願被下候処、御用多ニ付篤与決定之

義難相成、尚今日中御待被下度段被仰、乍併当御殿内

願書取を以被申出候へ、慥ニ申上候間、夕刻迄ニ御出

願可被下様被仰候ニ付、早々帰宿。夫々種々示談仕、暮

後（余）相認、兩人惣代調印ニ而、五ツ時前ニ本多氏御持参、

先々相頼被置帰宿。然ル処、馬路郷土中川浅次郎、拙宿

へ入来。則河内山半吾（余）右兩人面会可致趣ニ付、明早朝御

旅宿へ罷出可申様被仰、依之酒飯差出し、庄五郎、右浅

次郎兩人寺之内平野屋五兵衛宿へ止宿ニ被参候事。

○十二日。天氣（余）燒六ツ時、右寺之内右の兩人御下り、

夫々拙者共同道ニ而烏丸榎木町上ル高田氏御旅宿へ参上、

御面会。種々相頼候得者、尚又勘考いたし候而重役へ示

談可致与被仰、将又此度西園寺様へ（余）乍参途中（余）御帰国之

上甚々難相濟次第、尤因州江参り附属いたし候段間違之

義被申、尚又西園寺様へ御迎之義御願被成候へ、如何様

共可相成様被申、尚又一統相談之上相願可申候。然ル処、

明日河内山氏へ馬路へ御帰国、明後日山国江山林見分ニ

出役之義被仰、其段承り帰宿。且又樹下先生江本多氏内

願之次第如何相成哉御伺ニ御越被下候。樹下石見守多用

ニ付、書面ニ而御書残シ、尤其書面之次第拜見仕候へ、

段々骨折被成下候得共、何分ニ而一度参与役所（余）被仰候

義故、先此度者因州公江廿日カ三十日斗因州江附属いた

し候様被仰、尚又其後如何様共可相成候間、先此度ハ可

然被成候与被仰、夫々色々尚又示談いたし、無致方候処

へ小島豊前介入来。段々相談之上尚又参与役所へ願下ケ

仕度旨聞談ニ被成候ニ付、拙者へ取極り之相談有之候処

へ拙者共申分、何分因州ニ附申義ハ如何敷存候得共禁庭

様（余）被仰候義ニ付、最早願下ケ之義拙者六ケ敷様被存、

甚々心痛いたし候間、此度之願下ケ之調印之義御断申入、

将又拙者存心ハ何分因州公江附属申義ハ承知仕候得共、

何分初発之次第有之ニ付、軍事ニ参リ候義ハ相断申度候
義申立候故、右御下ケ之願書ニ拙者調印不仕。依之鳥居、
拙者代江口丈右衛門、則本多氏、西山彦市、小島氏八ッ
半時々参リ、則参与役所へ右之衆中被参、段々御願下ケ
之願書差上ケ段々相頼、皆々夕方ニ帰宿。且又因組林庄
右衛門入来。明十三日辰之刻出立之次第被申、依之段々
御咄し承リ、尚又高室入来。彼是小島氏夜五ッ半時帰宅
之事。

十三日。天氣。早朝新屋敷江皆々見立参リ可申筈ニ而、

其御積リ仕候得共、彼是与いたし候間、見立ニ者江口丈

右衛門、河原林民部、惣代ニ罷出候。且又河内山氏山国

へ御入来ニ付、河原林庄五郎、西右内、同勢太郎帰村被

致候。尚又河内山氏弥々幾日ニ御越ニ相成候哉、此段相

尋ニ家来佐市遣し候処、則中川浅次郎殿ニ面会、決着之

処相尋候得者、今日延引ニ相成候共、山国江今日被罷出

候与被申、依之買物之義段々心配仕候処、則西氏之買先

相分りがたく種々心痛罷在候。然ル処、午刻後小島子息

御入来。種々御咄し、中江村浅次郎国元へ買物持帰り、
鳥居、西山、江口、河民私用留守番。右小島与示談。本
多、河原林、小島平八色々御咄し、小島氏御帰り、本多
氏御室へ帰宅。則手紙樹下氏へ遣シ候処、西田耕平殿入
来。河清三郎上京之事。

十四日。雪降天氣。銘々私用、終日勝手之事。本多氏夕
方御入来。

十五日。天氣。早朝々色々示談致、則本多氏々御室様へ
御内願被下候処、何分右様之次第ニ而氣之毒ニ存候故、

如何様共相成候得共、当分者万端賄方へ持参。且又人数

四拾人都合成。尤鉄砲着丁ツ御求メ被成候ハ、右御

室様ニ而可然相成候間、此旨御相談。併拙者下辺ニ罷居

候ニ付、使手紙被下候処、拙者、高嶋助太夫御尋ニ参リ、

彼是夕方ニ相成、帰宿仕候得者、国元々喜間太、為吉上

京。尤西園寺様御迎ニ可参様国元ニ而相談調ひ、依之西

園寺様へ願書之相認、明日馬路へ可参様申来り候ニ付、

尤草木氏、井上、隊長与して可参相談。此義ニ而者六ヶ敷

拙者組皆く不承知ニ而、何分因州公の之次第將又願下ケ之義も有之候間、何分ニ茂当方致様無之候ニ付、夜五ツ時の江口氏、佐市、山国江使者ニ被參、其夜皆く〔止〕帰宿事。

十六日。天氣。早朝若代〔余〕氏の書狀參リ、則昨冬拜借之利足金相渡可申様申參リ、依之鳥居氏外方へ金子融通頼ニ被參候得共、此頃者実ニ不都合次第ニ而御断ニ御座候。且又銘を私用ニ而出他仕候跡ニ而、太政官代書記役所の御使御差紙被下左之通リ

○丹州山国神社 太政官代

書記役所

社司

鳥居河内守殿

御用候間、明十七日午刻太政官代江可被罷出候様神祇局ヨリ被申渡候、仍申入候也

二月十六日

右之通御召状到来ニ付、鳥居氏御請書相認、彼是夕方留主中、夕方ニ相成、夫故封箱使を以御返上申上候。然ル

処、昨夜喜間太使之義ニ付、西氏、小島采女上京、家来式人上京之早速ニ、国方一統之次第間違之儀段を御咄承リ候。則本多氏帰宿。皆く止宿之事。

十七日。雨降り。早朝本多氏、樹下氏へ右御召之次第内〔余〕承リニ參上。銘を髪月代致候処、本多氏御帰宿。右之御召之義、去ル十二日願下ケ之願書之趣御決濟次第内〔余〕被仰、其段本多被申、尚又因州江附属致候様被仰候ニ付、右願下ケ御決濟ニ付、因州留主居江御申渡可被下様之願書相認、則午刻、鳥居河内守、河原林大和守所勞ニ付、

江口丈右衛門代、本多帶刀、惣代西山彦市郎、家来式人、参与御役所江罷出候。然ル処、則願下ケ之儀御決濟可相成、先達而差上ケ置候願書老通与尚又願下ケ願書与下リ、

槌受取、且又因州留主居へ右之儀御申渡被下度、願書差出し申候処、御名〔名〕当違ニ付、且又三通ニ相認メ差出し可申様被仰候ニ付、彼所の皆く引取申、尤早く相認メ相掛リ申候事。

十八日。天氣。早朝の皆く仕度致、右之願書老通、鳥居

西山、河民、参与御役所江罷出候処、尚又御名当辨事伝（朱）

達所御役所与可相認様被仰、依之猶又引取、右之当名ニ

而三通相認置、皆御用之儀ニ相掛り、其夜草木文左衛

門一件ニ付、夕方井上省吾、家来老人、馬路江上京、夕

飯後、井上、西、伊丹惣江止宿。皆止宿之事。

十九日。天氣。早朝本多氏、樹下氏江御越、猶又、大和

守、西右内、右草木氏之一件ニ付新屋敷出張。水口氏ニ

面談いたし帰宿。則小島氏入来罷在候処、右願書三通相

認、辨事伝達所江罷出、執次太政官代江罷出、則右之願

書、山田右京取次ニ而延達被下、尚又近日之内御沙汰可（朱）

被下様被仰候ニ付、其旨承り右兩人帰宿。午刻後早々西

田村耕平、彦三郎息入来。色々御示談罷在候。午之刻後

早々皆々鉄砲之義ニ付、井筒屋弥兵衛方へ皆々出張。則

午之刻後林喜平次馬路江上京。尚又皆之者夫々江参り、

北野天満宮江参詣。鳥居、河原林、西氏、清山江行、酒

肴老献。夕方河原林恵次郎、家来老人与上京。皆々止宿

之事。

廿日。中天氣。早朝、本多氏、樹下氏江御越、則樹下氏（朱）

御面談有之。御親兵之御咄し罷在、夫々皆々私用いた

し勝手ニ夫々罷出候。尚又井上氏御越ニ而色々御示談。

則河惠公小島氏へ御越、尚又七ツ時、江口丈右衛門、小

塩村坊作助、田中利右衛門兩人御誘引、則菓子肴箱御持

参。此度者右兩人郷土之仲ケ間へ御差加へ之義ニ付、江

口氏江御頼、皆々止宿之事。外ニ国元江小弥太上京。且

又井本氏、拙者へ面談ニ入来。

廿一日。雨天。早朝若代氏江使参り、則書状到来。利（朱）

足金催促ニ参り候故、右使へ金八両右使へ相渡返シ申候

処、皆々私用午刻後早々勝手ニ罷出、河大、西右、河民、

林喜、芝居ニ出張。尚又婦リニ沢甚江寄、夕飯。酒肴老

献。又木場へ寄り、又候酒肴ニ而翌朝帰宿之事。

廿二日。雨天。本多氏、樹下氏へ御越、小塩村上坊庄蔵

入来。且又坊作助、田中利右衛門菓子一箱頂戴。右ニ付

山国名主仲ケ間へ差加へ之義被頼、其段御一統へ示談

致し、彼はいたし居候処へ小島氏入来。是又願書相認持

參。種々相談。折柄太政官代より御差紙到来。早刻罷出候様、尤書行前同断ニ御座候。則鳥居氏、河原林民部、家来耆人、右太政官代へ罷出、則因州江表向役所を御沙汰無之候間、当役所を別段沙汰ニ難及候故、其方を因州江右之書附返濟可致様被仰、則願書御下ケニ相成、右兩人持帰り、彼是夕方ニ相成、皆々止宿。

廿三日。天氣。早朝本多氏、樹下氏へ御越、帰宿。朝飯後早々施薬院之三之宮氏へ面談御越罷在候。御帰宿ニ而早々御親兵之出願可致様右掛り之役人被申候ニ付、皆々一統相談相極り、依之出願之下書相認候処へ小島氏入来。御酒肴献上ケ、段々示談相調、尚又横田氏入来。是又相談取極り、弥々親兵可願決定ニ御座候。然ル処小島氏、西右義、私之趣意申立、彼是与申ニ付、鳥居氏与西山氏、横田氏色々与被申候得共、聞入無御座、夜五ツ時半小島氏、河原林惠次郎同道ニ而御引取、跡之もの皆々止宿。外ニ河民、河喜、河清、林喜、西右皆々芝居ニ罷出、夕飯後帰宿。皆々相談相調申候事。

廿四日。天氣。早朝横田氏出歩出候、尚又程無河原林惠次郎帰宿。夫を御親兵之人数名前相調、則願書河民へ相認メ、尚又名前書別紙ニ相認、彼是八ツ時後を御親兵會議所へ本多氏持參。且又横田氏名前書江相加へ申候ニ付、則林喜平次、河民兩人其段押ニ罷越候。右横田氏何分新屋敷組へ同組ニ相成様段々被申候得共、入不申候故、此組江茂御断申度段被申候ニ付、其段右兩人申帰り、其段承知仕罷居、且又本多氏右役所を帰宿。右願書之趣承知仕、尚明日午刻後ニ罷出可申候様被申、皆々止宿いたし候事。野上上京。

廿五日。天氣。野上氏勝手用、銘々私用、且者天満宮様參詣。木村勇拙者へ面会ニ入来。河惠私用。則八ツ時後本多氏、河原林氏兩人會議所役所右願書之次第伺ニ罷出候。則三之宮耕苞殿掛り江面会。右願書御決濟、尤人数今五人増三拾人ニ可致旨、且右拝任之兩人者別段ニ可取斗。乍併右人数組頭を拵、組合書可致。且又不埒仕候者無之様差上ケ申一札書、兩人印形ニ而差出し可申様被申、

承知仕、彼是夕方兩人共帰宿。一統へ其段申入候事。

廿六日。天氣。早朝人数組合之相談荒と取極メ、書付ケ相認、在国之衆中江河原林惠次郎彦通、西右内彦通持帰リ、家来老人帰国。則水口氏入来。則国方惣代用之儀ニ付一参会可仕様被申、承知仕、程無水口氏引取、將又比賀江村前田太左エ門入来ニ付、右御親兵御決濟之次第示談いたし、則同人村方一統江相談之上御返答可仕旨ニ而御引取、且又小塩村森脇市郎左エ門見舞旁入来。則蒸菓子老箱為見舞与(到)入来。皆々賞翫之致、尤今日差出し可申約定之一札人数組合書相認申候処へ西田村川勝新之允入来。則親兵之儀被相尋、右之儀色と示談。且本多氏、河原林、右組合書并勢紙持参。則會議所掛リ三之宮御用ニ而他出、無坻其儘持帰リ、彼是夕方国方惣代用ニ而一条梅金参会故、右梅金宿へ河原林出張。夜五ツ時ニ帰宿。皆々森脇氏止宿仕候事。

廿七日。天氣。早朝皆々帰村之積、則彼是四ツ時後ニ相成、鳥居氏、西山、野上氏、河原林喜間太、江口氏、

坊作助、外ニ森脇市郎左衛門、家来老人帰国致し候。則跡り之者河原林大和守、同民部、同清三、本多氏残居候所、坂田氏、前田氏入来。藤野家親兵代人之義色と御相談有之。則代人之義河清、前田氏兩人引受ニ相成、其段内ニ承知いたし居候。八ツ時後下賀茂社家林河内守、下田修理、右兩人御入来。則山国組社司一統未々其儘ニ御座候ハ、我等組江附属被下候哉、此段と御相談罷在候得共、何分当組者御親兵ニ相成御決濟ニ相成、其儀申、尚又宜敷義有之節ハ又と御頼申上候与申相分レ、右兩人ハ御帰リ、且坂田氏、前田氏御帰リ被成候。皆々勝手ニ罷出止宿之事。

廿八日。雨降天。早朝河原林民部、同清三帰村。拙者勝手ニ付下モニ罷居候処へ田中峯太郎入来。代人之義御相談。且又同家栄吉弟之義御頼伝言。右之義種と示談申、右同人帰村之事。

廿九日。雨降。早朝八百喜宿高嶋氏へ参リ、酒肴飯頂戴。尚又小あい老籠進上。然ル処、今日五拾式ケ参会、押小

路并筒屋ニ御座候由、夫故川筋之用趣相勤彼是夜五ツ半時ニ帰宿致、則凶子ニ而止宿致候事。

晦日。中天氣。早朝河原林勘三郎入來。井本氏入來。則奥山惣代用示談致、彼是四ツ時柁源へ参り候処へ、本多氏留主中横田氏入來。井上氏入來。色々御咄し。井上氏親兵江差加へ之義御頼ニ付、其段色々御咄しいたし候。

然ル処本多氏御帰宿。尚又右之次第種々御咄し申候。彼是七ツ時八木伊三郎山国へ帰京之節立寄、則水口氏面談之上、明朔日嵯峨表へ御越之由、且水口氏伝言罷在、西山彦市上京。夕方原着。其夜三人共止宿之事。

三月朔日。上天氣。早朝拙者帰國之積。尤土産之まんどろ金吞朱代塩路ニ而買、則舛源通ニ付ケ申候。彼是五ツ時出立。杉坂橋政中飯。中村ニ而河松、河熊、河源、河暈、河小、野寅、野徳、野浜、中市、田峯、河彦、都合河清三拾式人家来式人出合申、篤与申關置相分連、將又河忠拙者へ用向ニ付、則同道ニ而帰村。尚又茶吞之納利ニ而鳥居氏上京。出合色々相談し相頼置帰村。則西右宅

へ立寄申候処、主人留主中塔村へ御出越、依而呼ニ遣し被呉候間、相符申居候。七ツ時帰宅ニ付面会。色々相談いたし、尤柁源弘分之義種々示談。則御酒壺献被下、彼是夕飯相済し、則家来善吉迎ニ灯燈持参引取、尤野尻氏へ御礼旁々参上。夫々帰宅仕、彼是四ツ時ニ相成申候事。

二日。天氣。在宅。早朝仙蔵入來。中江村平八郎筏代金之義申入、則中江村へ同人持参可有之様取斗、尤拙者金拾兩取替渡ス。栄吉、政太郎入來。比果善吉入來。八ツ時馬路役場へ飛脚参り、尤小源太、庄五郎、庄屋彦七、右三人召状。早速庄五郎殿御入來。色々相談有之候。然ル処明早朝庄五郎、彦七、右兩人御馬路へ出張可被下約定、將又仙蔵□□筏式乗中村源助へ考払被下、但拾式^(符カ)匁式匁五分上リ之約定ニ而売捌手付金五兩持帰り、髓ニ受取申候事。則当月十日宇津、吉田老母死去ニ付、尤十三日野送り出張。則十五日朝市之助、野尻氏呼手紙持参。飛脚ニ参り、夫々早々帰宅仕、則正午之刻帰宅。則野尻氏ニ而八ツ時へ小折紙一件ニ付鳥居始同家、野上、野尻、

拙者、都合五人集會仕候。則夜四ツ半時開き、夫々日々在宿。則其日七ツ時小塩村森脇本分万次火元三軒出火之事。則同月廿四日迄在宿之事。

廿四日夜五ツ時後京都河内山様被仰候山林之義ニ付野尻氏飛脚入來。則明廿五日四ツ時迄ニ馬路役場へ可罷出様、則賃金巻歩相渡、右飛脚止宿。然ル処塔村草木文左衛門方西田村広瀬与右衛門様今夕ニ即刻馬路役場へ可罷出様之書状到來。則河庄留守中之由申、明午之刻無相違出張之趣返書仕候ハム、尚又八ツ時後草木氏下部案内ニ而右広瀬氏、同村小林五郎左エ門様、右兩人今朝伏見河内山氏使者之趣、則拙者、河庄兩人同道ニ而馬路表へ可罷出様被仰候次第ニ而又候御入來。尤彦七河内山氏ニ面會之義御尋旁ニ候得共、何分河庄他行故、帰宅次第同道出張之義申上、右御兩人周山村栗伝迄御越、彼是いたし候ハム、夜明六ツ時夫河庄へ參り彼是支度いたし候事。

廿五日。上々天氣。朝五ツ時兩人同道出立。栗伝小休。

御酒壺、尚又進上物買求、星峠坂ニ而中飯致、午之刻後馬路表へ兩人着仕候。則着届ケいたし暫時休息。夫々役場江罷出候処、河内山様御越無御座候。然ル処彼是夕飯後呼出し、則東罷出、則河庄彦人、則掛り藤九郎殿被申候へ、西田村御兩人ニ御礼ニ罷出候処、甚々義心有之候。尚又夜九ツ時人見七之助殿郷宿へ御入來。拙者面會。右御林山之義ニ而使者御越之義申、夫ニ付金子之次第色々御咄し申上難相調義申候得者、種々御心配被成下、彼是八ツ時ニ御引取、夫々止宿仕候事。

廿六日。天氣。早朝人見小弥太様御越、則七之助様へ申上候金子之義ニ付、御心配被成下御入來。彼是いたし候折柄役場藤九郎様呼ニ御遣し、夫々東へ罷出、兩人江右同人御申渡ニ付、弥々河内山今四ツ時後ニ京都右御婦り被成候処、則御林山之義ニ無相違候処、兩人御下ケ之段、御請被成候哉御尋ニ付、何分願上候次第ニ御座候間、御下ケ之義ハ難有承伏仕候得共、過日金子段々心配仕候得共、尚又当此頃之形勢故実ニ少々茂難相調候間、

此段色々願上候得者、左様ニ而ハ迎茂六ヶ敷御聞入無之

間、直段ニ而も僧代銀延引之処、相願候カ不申候半而ハ

難相立段御利解有之、依而郷宿へ引取、今一応相談仕否

哉願出可申候。夫々郷宿ニ而兩人色々相談之上直段式百

目ニ仕、代銀当年々三ヶ年皆濟之相願候処、其旨御聞取

門前ニ而差扣へ罷居候得者、早々御役所へ御呼入上訟ニ

而河内山様被仰候ニ而、且今も藤九郎へ代銀三ヶ年義被

申候段甚々不埒千万ニ而、兩人者実ニ大服立御利解恐入

候得共、無致方平伏斗仕候処、河内山様段々御利解御勘弁

之上、五日之間猶予被成候得共、何分今以難出来金子故、

実ニ兩人心痛仕候得共無致方。今二日之処御猶予相願、

都合七日之間ニ半銀成共可致、其上尚又歎願可仕旨被仰

奉平伏、郷宿へ引取申候。則小弥太様へ右之次第相談仕、

色々心配御引取、尚又早々御入来。七之助様与御相談被

下、今晚人見七之助様、西田村ニ而心配被成下候趣御申

被下、尚又其旨小弥太様御越御引取、夫々河庄山国へ御

帰宅。金子之心配被成下手段ニ而、御引取後浅次郎様御

入来。色々御厚配被成下、尚又右之義河内山様へ御取成
相願申候処、早々御引取跡ニ而、拙者老人相待申候事。

則夜五ツ時前ニ人見七之助殿入来ニ而、夫々西田村江右

金子之儀ニ御越被下、拙者止宿致候事。然ル処郷宿市太

へ京都之御触為知ら候。

但し是迄回文通用之銅錢六文通用ニ相成申候、今朝

京都御触廻り候ニ付一寸御知らせ申候、以上

三月廿六日

廿七日。天氣。早朝々右之金談相待居候処、浅次郎殿御

入来。則弥吉帰宅為致候。尚又小弥太殿御入来。七之助

殿西田村々御帰リ右金談段々御咄し被下候得共六ヶ敷御

咄しニ付、尚又皆々御相談之上、浅次郎様昆沙門村源五

郎へ御掛ヶ合被下候手筈ニ而御酒卷献差出し、昼前ニ皆

々御引取被成候。然ル処今日中相待可申様右三人之衆中

被申、不得止事終日相待申候。夜五ツ時前ニ七之助殿入

来。則先方留主中ニ而今晚後刻帰宅之趣ニ而明早朝三人

共相談、浅次郎先方へ参り、早朝否哉御答可申与被申、

彼是四ツ時後ニ御引取、無坳拙者止宿之事。

廿八日。雨天。右七之助殿入来相待居候処、彼是四ツ時入来。昨日先方へ遣し候得共用向在之。他出掛ニ違依、今朝尚又使者遣し候而相調次第飛脚山国江差出し被呉候様約定いたし、拙者早々引取。周山栗伝ニ而中飯致、帰宅致し、尚又早々河庄殿方へ参上。則伊勢講相勤ニ付、源助、勘三郎、喜平次、利兵衛、与兵衛相頼、翌日嵯峨、京都へ皆々金子才覚ニ上京之被致呉候事。夫々日々金子才覚いたし居候事。

四月二日。雨天。早朝々支度。河庄殿、拙者、供卷人出立。周山栗伝中飯ニ而酒飯。尚又土産之肴買求、長野ニ而雨降。池尻村宗兵衛立寄、右金子之義相談之上兩人の頼置、彼是与夕方市太へ着致、止宿之事。

三日。天氣。早朝人見藤九郎殿方へ河庄殿内々届ケニ参リ、若哉呼状ニ而も罷出候而者、迷惑仕候故、是悲^(非)今日中ニ上京之者参リ候迄御答三之義相頼置、人見七之助殿へ手紙ニ而使差出し候処、留守故差置使帰リ候。無程人見

七之助殿入来。則金談御心配ニ預リ、小弥太殿の金百兩相調候書状御認被下、山国江飛脚之御都合被成下候折柄、右兩人馬路へ参リ候ニ付御持参ニ而入来。引続淺次郎殿入来。尚又小弥太殿江呼ニ遣し候処、早速ニ入来。夫々拙者共始河庄殿右金談都合之始末相談し、彼是御酒肴献差出し、色々示談致候処、四ツ半時在宿。手筈之金子持参ニ而同家彦助、同松太郎兩人入来。則夫々心配ニ預リ候。金子都合五百兩持参ニ而入来。右兩人共案心仕、尚又右小弥太君始皆々心配之金相頼申候。然ル処跡半金歎願下書右三人之衆中へ示談。小弥太殿右下書心配被下候処へ彼是昼ニ相成、御飯皆々差出し申候。然ル処、大野村仙蔵、京都の馬路へ昼後八ツ時着。是又心配ニ而金子八拾兩斗持参致呉候。則右歎願ニ、此度へ金七百兩上納、其余者来ル十二月十五日迄猶予之義相頼、尚又金相場之所御当地辺之相場立を以御納被下度旨相頼、役所へ罷出。小源太、庄五郎、庄屋代彦助右三人門番案内、東詰所へ罷出候処、藤九郎殿罷出、右願書差出し金七百兩

持參趣申上候得者、且今河内山氏昼ねニ付、暫時相待被

夜通し小雨降り申候事。

申候。將又此願書金相場之義甚々六ヶ敷段被申候得共、

四日。雨降り。早朝七之助入来。弥々今日河内山上京之

押而御取次宜敷取成相願、郷宿引取相扣へ罷居候次第、

由被申、尚又明日浅次郎兩人出京之趣ニ御座候。夫々皆

彼是七ツ時、且今右三人罷出候様申参り、早々金子持参

々相談之上、河庄、彦助、仙藏国元へ帰村。拙者、松太

ニ而御役所へ罷出候処、則河内山先生、藤九郎、取次願

郎、弥吉、右三人金子持参ニ而上京。則市太是迄之弘方

書相納申候処、当三日限ニ而金子調達被致候趣、尚又願

いたし、彼是四ツ時ニ皆々出立。水尾村ニ而中飯。七ツ

書願之通与有之候得共、右願之通御下ヶ渡可申義、篤与

半時妹図子着致、則松太郎親兵下宿へ参り、拙者共下来

拙者心得不申。依之甚々御苦勞ニ候得共、京都長州屋敷

式人止宿いたし候事。

迄出張。右屋敷ニ而歎願之次第御取持、尚又金相渡しニ

五日。中天気也。早朝下之下宿々松太郎入来。弥々今日

相成候ハム、相場之所、彼是不及申候間、明日ハ拙者上

下上共一手ニ相成、寺之内大宮東へ入、平五江旅宿相定、

京致候ニ付、来ル六日カ七日兩日之内拙宅へ参り呉候様

今日宿替之治定之趣申参り、此義ニ付下之分彼是申様子

被申、依而其旨承知仕帰宿。則七之助、浅次郎兩人相待

ニ而昼後早々参上可致旨申、拙者私用、門前へ行買物等

被具、右之次第相談。尚又右兩人幸京都江参り委敷内々

いたし、昼後々上ニ登り下長者町下宿参り、皆々ニ面会。

願込可申手段ニ而御酒相催し候処、寸田和三郎殿入来。

七ツ時後々今出川へ参り候処、右宿替ニ付、頓着中ニ付、

皆々舌献相催、則小弥太呼ニ遣し候得共不参。七之助用

本多始皆々江面会致、夕飯致、彼是夜四ツ時前迄示談。

向ニ付帰宅。夫々小弥太殿忍借之証文相認、浅次郎へ相

本多氏明早朝御室へ御引取之旨、西善五郎殿明日帰宅之

渡置、彼是四ツ時ニ寸田氏、浅次郎御引取、皆々止宿。

趣、皆々平五へ御引取、尚又拙者家来下モ図子へ帰宿い

たし候事。

六日。中天氣。早朝凶子江大布施村文右衛門殿御入来。

過日国元ニ而相對致置候銀談ニ付色々示談。且又証文相認方示談致取極々南ヶ谷壳券ニ而引当差入証札ニ取掛リ、相認申候。右文右衛門殿ハ出町へ御越被成候事。

借用申銀子之事

一 合銀貳拾貫目也 但利足月考歩半定

右之銀子、此度無抛要用之儀ニ付髓ニ借用申候処実正也、則返済之儀著来ル十二月廿五日限り元利都合無相違急度返済可仕候、尤引当之山林沓ヶ所、別紙ニ右限月迄山林壳券之証文差入奉申候、若万一右銀子限月ニ返済相滞候ハ、右山林御勝手ニ可被成下候、為後日之銀子借用証文仍而如件

慶応四年辰四月

丹州桑田郡山国

大野村借用主

安左衛門

庄屋

彦七

城州愛宕郡大布施村

文右衛門殿

年季壳渡申山林之事

一 山林沓ヶ所有所者其御村方之内南ヶ谷

我等所持之分皆式

但し境目 奥ハはたか谷之口釜床奥尾通り

口ハはんじやヶさこ口之尾通り也

山峰ハ奥ヶ口迄水流れ也

右之山林此度銀子入用之儀ニ付、代銀貳拾貫目借用、当座髓ニ受取年季壳渡申候処、実正也、尤来ル十二月迄ニ元利都合仕、其元殿へ相渡申候節者、右山林御戻し可被下候約定ニ御座候、若万一銀子其儘ニ致置候節者御勝手ニ支配可被成下候共、他方彼是古障申出候者毛頭無御座候、依之右山林当座壳券状仍而如件

慶応四年四月

丹州桑田郡山国大野村

売主 安左衛門 印

城州愛宕郡大布施村

文右衛門殿

右之通相認申候処へ親兵組下組小弥太入来。宿替之儀咄
ニ有之候。後刻拙者参上可申候与申、引取申候。然ル処
昼前刻大布施文右衛門、右之金子持参ニ而入来。則金子
請取申候。酒飯差出し取引相濟、右同人御帰リ被成候。
彼是七ツ時ニ相成、拙者家来上下宿平五へ参り候。即取
引金相場替銀式拾貫目、此金式百式兩式朱ト百七拾式文
請取、相場九拾八匁四厘がへ、則世話料、証文料金式朱
都合金式兩式朱右文右衛門へ相渡申候。夫々右同人御引
取、彼是七ツ時々上辺江上り、則下長者町屯所へ立寄、
色々相咄し、夕方々寺之内平五方へ参り候処へ河庄、河
彦、則七ツ半上京ニ而候処へ御親兵組ニ而昆雜仕候故、
今出川柁源方へ、右兩人馬路七之助、浅次郎、右兩人上
京。右之衆中柁源止宿。拙者、家来兩人、平五ニ而止宿
仕、親兵組へ篤与申聞ル。

七日。雨降り。早朝河彦参り河内山之家之義申参り、依
而早々柁源へ下り候処、皆々面会。家之義被頼候ニ付、
早々下長者町参り西山氏ニ面会。家之義ヲ種々心配ニ預
リ、弥々お友との之引ニ而、則榎木町東堀川角石茂家新
立借受可申約定ニ而、拙者、西山氏同道ニ而拜見之上柁
源へ上り、右之次第申候。夫々山林之願書相認持参ニ而、
八ツ半時鳥丸河内山氏参り候処、中々六ヶ敷被申、尚又
明日願上相認置候。則来廿五日限リニ而皆済可仕様被仰
其旨承知仕、拙者、河庄、河彦、則浅次郎皆々柁源へ帰
リ右之次第相談相極メ、其夜皆々止宿之事。

八日。中天气。早朝々願書相認置也。彼是四ツ時後、河
内山宅江河庄、河彦、拙者三人金子持参ニ而参り、右之
願書ヲ差出し、且又別紙一札是又差出し、金子七百兩共
相渡、則来廿五日皆済之約定いたし、早々三人共帰リ候。
則河内山之家、馬路兩人心配、尤七ツ時後右先生宅江被
参、万端相咄し御引取、且又拙者夕飯後寺之内屯所江参
り本多氏へ面談。皆々一統止宿之事。

九日。天氣。早朝河庄五郎寺之内入來被致候処、則此度屯所之義且又拜任之一件ニ付、五ツ時^ハ午之刻迄種々示談仕候処、彼是昼半時ニ相成、夫^ハ皆々他出。將又拙者共下長者町屯所江見廻り候処、則家賃家主^ハ貸與候様被申、依而家賃金貳兩貳步相渡扣へ、夫^ハ下辺江相廻り、夕方榭源江立寄、河庄、河彦面会。万端相談。屯所江歸り、本多氏始皆々歸り止宿之事。

十日。天氣。早朝河庄公榭源^ハ歸村被致、彼是四ツ時御室本多凶書様御入來。又河清公榭源^ハ出張。本多氏右御同道ニ而賀川江御越、河民公私用ニ罷出候。則拙者終日留守番致候。尤国元^ハ白米持參。則中江村弥兵衛持參。且又炭拾三俵牛ニ而持參。夫^ハ外ニ別条無之。夕方本多氏皆々歸宿。皆々止宿之事。

十一日。四ツ時^ハ雨降り。早朝本多氏、河原林大和守、家來者人、右御親兵屯所之義、且又銘々在国之義ニ付、樹下石見守先生へ示談内願、三之宮様へ屯所御止之義御伺被下度義種々相頼、兩人共引取、則本多氏途中^ハ川端

山本氏へ御越、拙者下屯所へ立寄、菓子菴箱相求、則伊藤源助殿旅宿參り候処、折節他行中ニ而面会不仕罷歸り、尚又下長者町屯所へ寄中飯。酒肴頂戴。彼是昼半時寺之内屯所へ歸宿致候処、井上入來。色々御咄し罷在、夕方本多氏歸宿。右兩人御示談。皆々止宿之事。

十二日。中天氣。極早朝若者皆々芸古^ヲニ行。拙者天満宮參詣。則河原林民部歸国。尤年回ニ付幸助買物取ニ來ル。井上病院江御歸宿。野尻浜吉風邪ニ而引籠、尚又喜間太彪^ト三兩人下芸古^ヲニ參り候。本多氏屋後^ハ出他。七ツ半時井上入來。則西善五郎、尚又勢太上京。且外ニ大野村源助、勘三郎、仙藏、藤次郎上京ニ付、右御林代金之儀ニ付、則平五ニ而面談相頼申置候。夫^ハ皆々止宿之事。

十三日。天氣。早朝皆々芸古^ヲニ出ル。將又拙者用趣ニ付、下長者町屯所へ立寄、則油小路下長者町下ル伊藤源助殿御親兵屯所掛り之儀ニ付、拙者面会仕、種々示談ニ及候処、中々六ヶ敷次第被仰下候ニ付、御親兵之附兵者決而相止可申様被申、甚々心配仕、彼是昼前ニ相成、夫^ハ下

江參り、色々私用。其夜図子ニ而止宿。且又其夜河原林
惠次郎寺之内屯所へ上京。皆々止宿之事。

十四日。天氣。早朝拙者谷尾卯兵衛へ參り、福村へ立寄、
図子中飯。早々下長者町屯所へ立寄、皆々面談。歩操
新式と云本五ツ冊小本式冊買求メ、八ツ時寺之内屯所へ
帰宿。彼是承り候処、河惠公、吉田氏へ金談ニ御越被下
候跡ニ而掛ケ違面会不致候折柄、鳥居河内守上京被致候
用趣ニ付、右同人下長者町屯所へ御越、本多氏帰宿。則

樹下氏へ六ツ半時々本多氏、野尻浜吉殿、右樹下氏江御
親兵之義ニ付、過日之御頼置候一件相尋ニ御越被下候処、
折節多人數御座候ニ付、尚明朝と申、夜四ツ半時右兩人
共帰宿罷在候而、皆々止宿之事。

十五日。天氣。晝六ツ時本多氏、樹下氏方江御越被下御
面会被致候得共、実ハ此間中多用ニ而三之宮氏ニ示談之
義失念仕候由、尚今日中ニ相談仕置候ニ付、尚今晝カ明
日ニ者御越被下候様被仰、御引取。然ル処河惠公帰宿、
面談。鳥居氏帰宿。夫々朝飯本多氏相濟し、夫々本多氏

私用ニ罷出候。皆々衆芸古相休ミ申候而休日皆々私用い
たし居、外ニ若代氏々利足金之催促状到来之事。

十六日。天氣。本多氏辨源止宿。皆々早朝々芸古ニ罷出、
則本多氏昼前ニ帰宿。夫より樹下氏へ御越被下候処、今
早朝々坂本祭りニ出張ニ付、四、五日者帰京無御座趣ニ
而則夕方より本多氏御室へ御引取、拙者者下長者町屯所
へ立寄、勝手ニ寄内々帰国之義申置、図子へ參り、跡皆
々止宿之事。

十七日。天氣。早朝々岩本、西采女、樋爪、小島万治、梅
吉、柿木氏、江口氏、鳥梅、河松、比賀彦助、坊作助帰
国いたし候。則河民部、則十六日上京ニ而終日私用罷出、
則昼半刻々常照寺一件、奥山一件ニ付参会相催し候義、
右民部使ニ図子參り、尤八百嘉席ニ而相勸ニ相成、下黒
田大江吉之丞、上黒田全助、辻彦六、西山彦市、草木新
次郎、高室吉右衛門、河原林大和守、右之衆中種々示談
いたし候処、何分広河原之義ハ當時先々見合置、若哉自
然山林杯伐荒し候節者、早々参会示談之上出願可仕約定、

且又塔村之義ハ何分ニ而モ、常照寺之義ハ彼是可仕心底ニ而、尚下七ヶ村之義是ハ種々之工夫可仕、尤天龍寺ハ一応引合七ヶ村ニ而寺卷ヶ寺ニいたし可申様ニ相成候ハ、差支無之趣、皆々承知ニ御座候。彼是五ツ半時に相成、皆々引取、大江氏、全助兩人ハ右方ニ止宿。拙者西山下長者町屯所ニ而止宿いたし、明早朝上屯所へ帰止宿之事。十八日。中天气。河惠公へ鳥居氏、西善ハ榊源弘分金子之義相頼申候処、則河惠公先々御引受取、皆々案心仕候折柄、若代四郎左衛門御入来。昨冬之拝借之金子之義、且者利足金催促之事。尤今日野上氏、野尻浜吉兩人帰国之被致候処、尚又河惠公用向ニ付、民部火急ニ帰国。則昼飯後早々帰国致候。彼是示談仕居、七ツ時より拙者勝手ニ而罷出候。然ル処、則出掛中江村藤兵衛倅上京。尤当十六日馬路より五ヶ村庄屋衆中呼状ニ付出張之所、此度ハ当支配之分杉浦家ハ口々拝借銀、来晦日限り皆返納可仕趣被仰渡候ニ付、一統拝借人相談仕度故、拙者始西氏帰国可仕様被申候故、飛脚ニ参り候由ニ而、早々拙者私

用罷出候処、則前件之通り、河惠公、供為吉兩人昼飯後より右飛脚ニ御上京。尤庄屋彦七殿書状到来。何分此度ハ拝借人顔揃可申様被仰渡、依之急ニ此飛脚同道ニ而帰村可仕様申参り、尚又河惠公、倅兩人下辺図子江右書状持参ニ而入来。早々承知ニ付帰宿。翌早朝支度。拙者上屯所へ参り河惠公帰国ニ付、御林山手銀之義ニ付、源助、仙蔵、為蔵、河惠種々相談。尚又平八郎殿色々示談被下候処、尤金子六ヶ數候ニ付実ニ大心配。先無致方故、右之面々衆中吾人ニ付金百兩宛才覚被下候様ニ約定被下、則来廿四日之夕方在宅ニ而打揃可被下候約定ニ而相訳連、則本多氏、鳥居氏相頼置、右之義ニ付西氏、河惠、河忠、拙者彼是四ツ時ハ帰国仕、尤為吉供ニ而帰国候間、杉坂中飯。右杉坂与真弓之間河兵助上京ニ而出合申、尚又頼置相分レ鳴之堂小休ニ而七ツ半時帰宅仕候。

則其夜野尻氏御宅ニ而皆々参会仕候。河庄、河惠、河小、野彦、西善、野上氏、右之衆中種々相談仕候得共、今日無致方候間、何分ニ而も歎願致より無致方。猶明日ハ

五ヶ村庄屋衆中西氏宅ニ而集会。明後朝我等共三人者馬路へ可參約定ニ而、彼是与四ツ半時皆々相識連申候事。

廿日。天氣。色々在宅ニ而私用致罷居候処、拙者共中江村西氏へ五ヶ参会ニ可參約定之所、風邪ニ而庄屋へ相断リ申上候へ、則河恵公庄屋年寄中江村へ昼後より出張之事。

廿一日。雨天氣。早朝々支度仕候処、庄屋々呼ニ参リ、則八ヶ村用吉村氏金子之儀相談ニ付、彼是四ツ時ニ相成、夫々拙者、河庄、河恵公三人出立。周山栗伝中飯。馬路へ七ツ時着。則辻村藤野代新助、庄屋佐兵衛、跡々追付同道。佐兵衛着届ケ皆々郷宿ニ而休足。其夜ハ水上組同宿ニ而種々御御咄し有之。色々示談。皆々止宿之事。

廿二日。大雨降りニ而大洪水之様子。尤雨風ニ而困入、則拙者、人見藤九郎宅へ参リ、御役所へ罷出候義相尋ニ参リ候処、早朝々出役。夫々人見七之助宅へ参リ、色々右山林之一件御礼申、且又此度拝借銀之歎願之始末相尋、馬路村振り合相尋申候処、歎願之様子篤与承リ、午之刻前ニ帰宿。彼是八ツ半時ニ御役所々呼出シ有之。則拙者、

河庄、河恵、藤野代新助、右之者罷出、東郷土之詰所へ罷出候処、則人見藤九郎、中川嘉右衛門兩人々過日五ヶ村庄屋呼出し之次第被仰、尤其儀尚又右之者へ呼出し候儀被仰付候得共、何分當時ニ而ハ御上納返済六ヶ數候故、是悲歎願仕度次第願置、皆々帰宿仕候処、下村庄屋新助、中江村庄屋伊助御越被下、右次第申、大洪水之義ニ付外村之義如何ニ御座候哉難斗様子承リ、皆々当惑之処へ、人見七之助入来。則河内山別宅大焼鯛肴枚、福た免者桶右同人々彦市取次ニ而相頼相納厚御礼申請、皆々止宿いたし候事。尤明日者河内山上京之由被申候。

廿三日。中天氣。右歎願之次第種々示談いたし候折柄、人見七之助入来。則河内山弥々今朝上京ニ付、御林山代金京都へ持参可致様内々被申、將又右之謝礼之義も内々被申、是又承知仕居候処へ、又候役所々中川淺次郎手紙ニ而河庄公呼リ参リ、早速ニ右本人罷出候得者、河内山々被申候始末、尚又伝言之次第ニ御座候処へ彼是七ツ時ニ相成候。則比賀江村庄屋佐五郎、野尻彦七御越ニ相成

歎願始末、色々示談仕候。然ル処山代金京都ニ持參之次第申、皆々心痛相談之上、拙者、河庄公兩夜通しニ歎願下書八通斗相認、皆々披見之上止宿いたし候事。

廿四日。天氣。早朝右歎願清書致、皆々相談。河庄公今日逗留。右歎願小弥太公へ示談被下、差出し、明日上京被下候約定、尤京平五着約定。拙者共河惠公兩人へ金子都合之上明早朝上京之約定ニ而帰村。彼是四ツ時ニ相成跡へ願書差上ニ可被下約定ニ而帰村。則周山栗伝中飯。

八ツ半時帰村、中林源助立寄。又田中為右衛門へ立寄、金子都合之義相頼、夕方皆々揃ひ被下候手筈ニ帰宅。夫々河庄宅へ參り、尚又仙蔵宅へ參り、夕方入来相頼置、髮月代夕方帰宅入湯いたし候。彼是五ツ半時河惠公、又河民部入来。色々相咄し相待居候処へ、仙蔵追々源助、為蔵、利兵衛忝入来。則河勘帰村無之故、皆々心配。尤金子不都合ニ付種々心配被下候得共、無致方先四百兩斗請取、御酒肴献差出し、彼是与いたし候得者、則夜七ツ半時ニ皆々歸り被成、夫々皆々仕舞申候事。

廿五日。天氣。早朝中林源助入来。則金子都合之儀心配被下候処へ、河惠公々金五十兩為持被下、慥ニ請取。尤勘三郎帰宅無之候故、尚又源助公々金拾兩預リ候折柄、仙蔵、中江村小平公江出越被下、則金四拾兩持歸リ、是又請取居候処へ、河忠入来。彼是与四ツ時ニ相成、夫々家来為吉連レ出立。杉坂中飯。京都平五着。然ル処勘三郎分家彦助へ金六拾兩預ケ置、伏見へ被參、則右金子之工夫ニ御座候。尤河庄公馬路々昼後早々平五へ上京。拙者共八ツ時前ニ上京。夫々色々都合致、金八百兩為吉ニ為持、八ツ半時々河内山氏方へ參上。則相待居、七ツ時々右金子持參。木屋町之小笠原氏へ同道ニ而罷出候処、折節留守中。依而役人中川武平太へ金八百兩相預ケ河内山氏之仮請取落手。夕方より引取柁源へ立寄帰宿仕候得者、則西氏与小島万次上京。皆々止宿いたし候事。

廿六日。雨天。則勘三郎今日帰村見合せ被下、金子都合相頼置、則河内山氏へ御礼として菓子箱相調ひ、則金子百兩中へ入支度仕、彼是昼早々右河内山氏へ河庄公、拙

者同道ニ而罷出候処、又候留守中ニ而相待可申様申被置候ニ付相待申居候得者、御酒頂戴。彼是八ツ半時ニ帰宅。面会御礼申述、尤明日ニ小笠原へ同道参上可致間、其旨承知仕、且又杉浦拝借銀之義相頼申候得者、明日右之小笠原氏へ篤と御頼置被成候へ、程能取斗可申様被申、将又山国組之処、是又相頼置引取、河庄公と相別連谷尾卯兵衛へ参り、右刀拵之義急置、彼是夕方帰り候得者、大雨降り無抛材小市ニ止宿之事。

廿七日。雨降り。早朝材小々出立、朝飯。屯所平五江参り、則勘三郎々金五拾両請取、早々河内山氏へ拙者、河庄公同道ニ而参上。夫々小笠原氏へ御礼之相談。則金拾両相包台借用いたし、四ツ半時々小笠原氏へ同道ニ而持参仕候処、折柄又候留守中ニ而相待申中飯頂戴。彼是八ツ半時ニ御帰宅。早々山林之義御礼差出し、尤河内山氏御取次、然ル処面会仕御書下ケ之義河内山氏へ相渡し可申間、請取可申様被仰候ニ付、其段承知仕候。尚又杉浦拝借銀之義、段々相頼置、早々引取、柗源宅ニ而河庄公、拙

者、勘三郎、おまつ外皆々三の又々色々着取寄、沓献差出し申候而夕方前ニ帰宅。此度借家之屯所之義ニ付鳥居始皆々儀論いたし大臥草ニ而早々止宿致候事。

廿八日。中天氣。早朝河庄公柗源より入来。弥明日馬路表へ歎願之義ニ付出張之義京都へ出越申約定致、則国元へ庄屋殿、河惠公江書状相認メ、右兩人明日馬路へ出越之旨申遣し候ニ付、為吉帰村。河庄公、おまつ始おみ、勢太同道ニ而芝居へ御越、拙者共四ツ時河内山氏へ昨日之礼ニ参り候得共、尚又留守中。弥々明日馬路へ御帰村ニ相成候哉相尋申候処、難相分り由ニ而其旨承知。夫々屯所之家所々相尋ニ参り、尚又下長者町屯所へ立寄、午刻帰宅。尤河庄公金拾両入用之由ニ而早朝相渡申、尤昼後より私用致、且早朝鳥居氏帰国被致、其夜皆々無難ニ止宿之事。

廿九日。上天氣。早朝河庄公柗源へ入来。馬路へ出張之支度仕居候処へ西山氏入来。則屯所家之義ニ付過日より色々見分ニ罷出候得共、是上ハ無御座候処、則此度弥猪

熊樞木町上ル所ニ罷有候由ニ而相談ニ御越、則廿九日ニ相成、依而本多氏、西氏、拙者、西山氏相談仕、右之家早速ニ見分ニ罷出、篤与見分之上家賃御引合被下御取極被下度旨申置、将又金子拾七兩式歩西氏へ取替相渡し、拙者、河庄公、下部宇之助供ニ連北野の上嵯峨へ行。大覺寺様御内小林氏へ立寄内およね義相頼置、且又御酒肴中飯頂戴。彼是八ツ半時より清瀧愛宕山へ参詣。原村へ下リ彼是夜五ツ時前ニ馬路市太へ着。則野彦、河惠公、芹生村孫次郎夕飯後夫々皆々支度いたし、夫々皆々止宿之事。聞四月朔日。上天氣。早朝々拝借銀之義ニ付皆々示談歎願下書ニ相掛リ、河内山氏馬路へ御帰リ罷在候哉相尋申候得者、未タ御帰陣無之、彼是いたし、先ニ止宿。尚明朝之事ニ御座候約定ニ取極メ申候事。

二日。上々天氣。右歎願書差出し申度候処へ、則河内山様御帰リ昨夜無之候ニ付、色々示談下書相認、先隊長御帰リ迄見合可申相談ニ相成、終日下書本願相認、明早朝ニ御役所へ差出し可申約定致候処へ、夕方後人見七之助

入来ニ付、河内山氏御帰リ之義相尋申候得共、未タ御帰リ無之趣、且又山林御下ケ無滞相濟候ニ付、是迄世話ニ相成候方へ御礼之義相談いたし、尤石見江者先宜敷、浅次郎金七兩式歩カ拾兩、又彦市金千疋カ三兩斗、藤九郎へハ金五百疋斗、小弥太、七之助殿へ者先々跡之事ニ而宜敷様被仰候ニ付、其義承知相分連皆々止宿之事。

三日。中天氣。則河内山氏昨夜四ツ半時、水尾村暮ニ而駕ニ而御帰リ、則人足市太へ夜中ニ泊リニ参リ候処、早朝七之助入来。山林立札書下ケ之義相頼置候ニ付、其義頼置候義御咄し被下、早々御引取被成、然ル処御役所々彦七吾人呼出しニ相成、尚又小源太、庄五郎罷出申候様被申候ニ付、早速罷出候処、且今用向ニ付郷宿ニ扞居可申様被申、依而郷宿ニ差扞居、中飯後則八ツ半時彦七長屋迄藤九郎々呼ニ参リ、右彦七罷出候処、右同人々御^(庄クイ)之義、段々被相尋、尤書下ケ無程呼遣し候間、左様承知致引取、尚又皆々打揃歎願書持参ニ而罷出候処へ呼ニ参リ、皆々罷出候処、長屋ニ皆々相待申居候処へ、右之歎願東

詰所へ右之願書差出し置候折柄、役所を御林掛リ呼出し、小源太、庄五郎、彦七罷出候処、右山林之書下ヶ頂戴、左之通り

差返遣杉山之事

右者其方古来を相伝之合譬山ニ有之候処、近来杉浦方江引渡候得共、此度御一新之折柄、是迄之參掛り追々歎願之趣尤ニ相聞候ニ付、格別之詮義を以差戻遣候上者、已来其方可為勝手候、尤山陰鎮台府御用材有之節者、先達而請書差出し候通、何時ニ而も差出候之儀者勿論相違有之間敷、右後証之為一札相渡申所如件

馬路陣屋 印

辰四月

山国大野村

河原林小源太殿

同 庄五郎殿

右之通御役所ニ而河内山氏を拙者始河庄公、野彦公、

右三人へ御渡ニ相成、早速請取申上御礼相述、然ル処右山林之高礼取扱之義へ、則明日人見藤九郎殿江申置候間、

此段承知可被致旨被聞申候。尚又山国五ヶ村之制礼、此度御渡しニ相成候間、請印いたし候様、東詰所ニ而惣代ニ彦七、孫次郎兩人請印、右制礼右村之請取皆引取、猶明日国元へ皆々帰村可仕様相尋申候処、藤九郎尚相尋置候間、宍人伺ニ罷出候様被申、其段承知帰宿。皆々止宿之事。

四日。雨天。早朝人見七之助殿宅へ拙者参り候処、掛ヶ違引取候処へ右同人入来。右山林之謝礼金千疋彦市金五百疋者藤九郎金貳両石見へ右之通取極々、尚又小弥太、七之助、浅次郎三人之義へ跡之事ニ致候様示談中、御役所を呼出し、山国皆々罷出候処、御役所ニ而河内山氏段々利解被仰付、尤右銀半方カ三ツ割者カハは悲筋立無之候而者難相立様被仰、何分歎願之義へ御預り置被下度旨相頼、尚又帰村之上情々筋立ニ相成様相談仕、猶追々歎願可仕様申上置帰宿。尤昼前ニ相成、河庄公、拙者、右山林之御礼ニ右之者持参。口々御礼申上候。彼是昼飯相済申候。早々出立、帰村仕、周山栗伝酒肴。右河庄、

河惠、河小、野彦、芹生孫五人^ノ者篤与相休ミ、彼是夕方出立。河清へ立寄、五ツ半時帰宅之事。

五日。中天氣。早朝右御林高札取役人馬路へ出役之仁相待申居候処、則八ツ半時ニ入来。則人見太郎右衛門殿、

家来ハ房吉、右上下出役。夫休足。彦三郎ノ手伝へ河庄、野彦兩人あいさつ相濟、夫風呂致し湯相濟、夫休足。

夕方酒飯差出し申候処へ、彼是五ツ半時ニ相成、右兩人止宿之事。

六日。天氣。早朝御林制札善吉、為吉、早朝取ニ遣し朝飯前ニ指帰り、夫右制札一人人見太郎右衛門殿へ返

上仕候得者、都合三本返上可仕様被仰、尤右三本共持帰リ候様被申、依之辻村、下村江制札取上ケニ彦三郎遣し、

右之次第篤与申客□早々差遣し候。則五ツ時ニ右兩人帰村出立、右三本共持帰リニ相成候事。則四ツ時ハ河惠

公、月喜伊勢講相勤被申、尤拙者参リ、且又七ツ時ハ榮吉方へ仕舞之片付ニ参地走ニ預リ、然ル処京都今出川ハ

本多氏、太政官ハ小折紙之義ニ付召状飛脚到来。依之辻

氏へ使差遣し候得共、上京者明夕方ニ相成候故、迎茂明七ツ時ニ者京着難相成返事ニ付、尚又河庄、河惠公、野彦御相談之上、野尻氏、拙者、明早朝上京之約定ニ而相分連申候事。

七日。上天氣。彼是朝六ツ時に相成、夫出京。則野尻氏、拙者、供教之助。尤午之刻前ニ榭源江着仕候。早速ニ

中飯相濟し、則午之半刻支度。本多氏、野尻氏、太政官へ御越、則此度神祇局甚々取調向多分ニ相成、迎茂火急

之調ニ者相成不申。依之一先願書御差戻しニ相成り候ニ付、尚又請取。尤小折紙之義如何ニ相成候哉、取次羽倉

越中殿へ押而相尋申候得者奥江伺ニ被為入、尚又小折紙之義者御預り置ニ御座候間、尚又後日夫々拜任之様子御

聞ニ相成候ハ、早々出願ニ相成候様申申置候^申与被申、右願書請取、七ツ時前ニ帰宿。夫皆々止宿之事。

但外ニ塔村一件ニ付、神葬祭之義ニ付、西山入来。夫右之義段々御咄し罷在候得共、先御銘々之思召ニ可被成様

宜敷与存候ニ付、此度拙者共ハ相断申候跡之義ニ頼入候

次第ニ御座候処へ、夜六ツ時辻氏上京御立寄、則右太政官之一件篤与御咄し申上候得者、今晚者丹清方へ御越被成候事。

八日。上天氣。早朝皆々朝飯仕舞。夫々子供芸古ハヤシニ行。則數之助帰村。西氏へ手紙、本多氏へ御差届ケ被成候。則四ツ時ニ帰村之処へ塔村高室治左衛門殿入来。右神葬祭之一件ニ御越、依之本多氏へ相談有之。彼是四ツ時ニ相成、拙者、本多氏、用向、堀田家屋舗之義ニ付下凶子江参り、右屋舗之一件示談仕候処、下村利助入来。右屋舗地面之義篤与申置候。夫々谷尾仙吉江参り候得者三條橋之下モ川原ニ竹之屋来之中ニ極門台有之。近藤勇之首相さらし有之候。夫より凶子ニ而止宿いたし候事。

但し夜四ツ時々大雨降りニ相成申、翌日同断。

九日。雨降りニ而彼是下用向相濟し申候処、本多氏へ屋敷地之義ニ付書面ニ而野尻浜吉使へ被参候。昼飯後早々屯所江帰宿。夫々本多氏与種々示談致、皆々止宿之事。十日。上天氣。早朝馬路行。西氏相談之上拙者帰村致候。

尤西氏、小島平八郎、右九日夜四ツ時上京。下部才吉供。尤杉坂中飯。途中ニ而河清公出合、則上京。彼是八ツ半時帰宅仕、将又庄屋彦七宅へ参り、明日馬路へ出張之義相談致、然ル処夜分呼ニ参り、則吉村橋兵ハシニ而借用金子之義ニ付、河庄、河惠、拙者共野彦ハシ是悲返濟可及催促罷在候ニ付、皆々承り、夫々銘々心配可仕管ニ而相分連歸り止宿之事。

十一日。中天氣。早朝支度。六ツ半時々出立。彼是馬路表へ四ツ時ニ着仕候。中飯後早々西氏、才吉、京都へ着ニ相成、尤三組打揃ひ、則馬路組扣帳拜見仕、其夜写取、尚又口々掛々ニ紙いたし、彼是四ツ半時酒肴献。夫々止宿之事。

十二日。中天氣。早朝々右馬路組之衆中御入来。則小弥太、勘六、権八、文平、兵四郎、宗兵衛、市郎助、水上組栄太郎、直三郎、拙者、西善五郎出席。段々三組勘定之口々取調申候処、人見七之助入来。則四書本御頼ニ付、其義承り、将又前川ニ而借用之銀子之一件種々示談いた

し候。今日内談可致約定ニ而相訳連申候。然ル処彼是四ツ時^カ立会勘定相始申、段々引合致、且亥年出府割請取、將又天橋番所勘定交代金百兩割勘定皆々立別候得共、則御地頭扣之分ハ跡廻しニ相頼、漸々七ツ時ニ相濟し、尤五百廿五匁佐七雇賃市太へ相渡、且金七兩ハ鴨内村柴太郎へ取替申候処へ山国^カ河原林庄五郎、別段河内山^カ書面參り、夫故御越ニ相成、夫々御酒肴献皆々相濟、尤三組立会之造用一切無御座、早々止宿之事。

十三日。天氣。早朝^カ色々種段^{ウツ}、則人見七之助殿入來。

右前川氏之金談一件ニ付相談仕、先々篤々山国丈ヶ示談之上可然相頼申、尚又河内山氏御帰リ被成候哉相尋申候得者御帰リ無之。右七之助殿ハ御帰リ彼是昼ニ相成肴献酒ニ而河庄公御相談仕候得者、先河庄老人丈ヶ御残り、則河内山氏御帰リ相待可申様被申、其段相頼、午之刻^カ拙者、西氏、才吉愛宕山越ニ而上京仕候。則愛宕山へ參詣。清瀧榭屋ニ而中飯、広沢ニ而小休。彼是暮六ツ時榭源へ三人共上京着致候。夫々本多氏始屯所地面之義種、

相談致、皆々止宿之事。

十四日。中天氣。雨天。早朝^カ地面之示談仕、髮月代支度、彼是色々示談仕候。則七ツ時馬路^カ河庄公手紙飛脚參り、尤飛脚^カ同道ニ而馬路へ出張可仕様申參り、則右飛脚平五宿へ案内。右之夫右宿ニ而一宿。且又外ニ小島平八郎地面借用ニ被罷出候。則夕方ニ帰宿。尤右地面之義ハ弑、三ヶ所有之候得共、宜敷場所茂無御座候ニ付、此段色々示談致、皆々夫々止宿之事。

十五日。中天氣。早朝^カ支度、彼是五ツ半時ニ成、則馬路^カ之飛脚立寄相待、拙者、才吉を連、右刻限^カ馬路江榭源^カ出立。彼是小野辺^カ雨降り、追々大雨ニ相成、水尾村中飯。則八ツ時馬路へ着仕候処、山国組庄屋衆中是又飛脚召状參り候ニ付昼後早々皆々御着。則下村新助、中江村藤兵衛、辻村佐兵衛、比賀江村佐五郎、大野村彦七御着。夫々則河原林庄五郎殿、馬路郷土藤九郎、右兩人山国組取締之義河内山氏より被仰渡候ニ付、其段種々拙者始皆々様示談有之。其後河庄御役所へ被參候。猶明日御

役所五ヶ村庄屋中可罷出候様之義ニ付、其段皆々承知ニ
而其夜淨留理^(ホク)卷^(イ)相催、其夜皆々集会、止宿之事。

十六日。上天氣。早朝より御役所之義御請之義御請ニ相
成、然ル処右河庄咄人ニ而ハ難勤交代之義相願候処、左
候得者小源太呼ニ遣シ可申様被仰、兩人ニ而相勤可申様
被仰渡候ニ付、小源太義ハ郷宿へ相談旁々出張仕罷在候
間、此義御申渡ニ而早速御請可申様被申、夫故五ヶ村庄
屋衆中示談之上、則河庄始拙者皆々御請ニ罷出候処、則
御役所、河内山氏始瀧之進、武助、嘉右衛門、藤九郎御
捌席ニ而右兩人御請交代之儀者御承知被下、將又外四ヶ
村ニ而今咄人相勤可申様被仰渡、此段五ヶ村庄屋中御役
所被呼出候、右之段河内山氏^(イ)申渡候ニ付、先々取不^(イ)敢
御請申上、跡々名前可申出与申上候得者、則杉浦ニ而拝
借銀之義、先達而歎願一条小笠原江相伺申候処、銘々借
用之義ハ当分平方上納、跡々永拝借、又難波拝借之義ハ
三分方上納、跡々前同断。又村方拝借之義者四分方上納、
跡々前同断。尤是迄無利足之義ハ三朱之利付、三朱之義

ハ五朱ニ而、永々拝借ニ而、来ル五月十五日ニ相納可申
様被仰ニ付、其旨先々承り畏り庄屋中皆々承知之旨、則
其節歎願之分、大野村之分、小源太之分、尚慮次郎芹生
村之分、是丈ヶ歎願書下り候。尤彦七皆々預り帰宿。將
又先達而差上ヶ置候鉄砲証文当て名ニ長州御陣營馬路御
役所与書直シ可申様被仰、此段右庄屋夫々相直シ詰所へ
罷出候得者、則小源太、藤九郎兩人、証文請取、右村々
之鉄砲相改、庄屋衆中へ相渡ニ相成、請取帰宿。昼飯皆
々相濟シ、右庄屋衆中帰村。河庄、河小、才吉右用ニ而
相残り居候。則右役所詰ニ付下駄外買物。池尻村藤長江
買物ニ行。夕方帰宿。龜山槌屋泊り合、是又買物致シ、
右三人之者止宿之事。

十七日。上天氣。早朝々人見藤九郎へ披露之相談ニ拙者、
河庄罷出候処、出勤掛違、尚又人見七之助御宅へ参り候
処、是又他出掛違ニ相成、夫々役所表右兩人出勤一統へ
相拶^(マツ)、夫々河内山氏へ出勤、種々御咄し、則山国組者大
野村ニ而出張取締所咄ヶ所新ニ出来、其場所ニ而万端村

可申出様可致候。尤兩人之内老入者当役所へ日勤可致様被仰、此段承知。将又拝借銀之義、又々急速之義被仰、段々相願、何分右仰之義へ承知御請申上候得共、当分金子六ヶ敷、是悲米七月十五日迄御猶予承り度候間、何卒此段御聞届願上候。則芹生村之義別段ニ難波之義相願候ハ、右之処へ老貫目ニ而当分勘弁致遣し候様被仰候ニ付、此段兩人の篤与申聞候様被仰聞、且又分取刀式本買請申代金早々才覚仕候。将又右大野村ニ而取締所之達書、制札之達書、河内山氏御差函ニ而藤九郎主殿、小源太相談之上相認、尤藤九郎認、拙者請取、右山国組へ相廻し可申筈ニ而暮六ツ時帰宿。右達書河庄へ披見。止宿之事。十八日。雨天。早朝当番河庄、藤九郎、役所へ出勤。尤刀代金式拾五両河庄公江相渡し申候。尚又龜山榎屋ニ金老兩相渡申置候。雨ツヨク降り、彼是致候得者午之刻ニ相成、然ル処右達書式通河内山氏へ見せ可申様申参り、尤拙者ニ罷出候様河庄公宿所へ御帰り、夫々同道ニ而罷出、右先生罷出、達書式通御覽ニ入、此通り帰村之上、早々

取締所取立、長州陣営出張取締所相拵可申様、将又拙者脇差見せ可申様被申、是又御覽ニ入、則御前望ニ候間進上可致約定ニ而昼後早々帰宿。夫より仕度彼は八ツ時帰村。周山粟伝酒老猷相催、六ツ半時ニ帰宅仕候事。十九日。天気。早朝右達書式通取締所出勤之義ニ付参会之相談。野尻氏へ持参。則今晚彼人寄合可致約定。夫々右式通持参。河恵公持参。段々相談、物語致候得共、思召ニ相成不申様子篤与頼置引取、尚又河忠へ立寄、右之次第申入候得共、家内一統実ニ大悦ニ存可申、尤山国名主中之大慶無此上次策、将又広河原村役山之義も則此後者目論見事更ニ難相成、実ニ大悦。先祖之家筋急度相立可申与申、皆々大悦ニ而拙者帰宅。則其夜役人寄合庄屋ニ而相催候ニ付、右当村ニ而取締所相立候義、則皆々一統大悦ニ而、尤勝手斗申立、則拙者、野長、野彦、喜平次、勘三郎、彦三郎、且為蔵、利兵衛、右之者跡者不参ニ而御座候得共、先ニ右之者丈ヶ承知ニ而皆々引分連候事。

廿日。雨天。早朝を取締所へ出勤。掛ニ礼与色く所く相拵申、彼是昼ニ成引取運ニ、則林要藏殿山林積り立之儀相頼、午之刻後右同人入来。篤与相頼申置候事。

廿一日。雨天。早朝を役所へ出勤。則拙者、野上長兵衛、野尻彦七、役所ニ而万端相談。弥々廿三日五ヶ村庄屋衆名主老人参会相催相定、御酒老猷頂戴。夕方皆く帰宅之事。然ル処右五ヶ村之参会之義ニ付、西氏呼ニ遣し、則市之助差遣し候処、則途中ニ而右西善五郎出合、則書面披見之上午之刻後帰宅。早々拙者呼ニ遣し候ニ付、早速右八ツ時ニ拙者参上。然ル処、京都山科(虫クイ)□□添被下神社之義太政官江願書之次第御咄し、尤鳥居氏入来。右之一条種々示談仕、尚明日鳥居、河原林始新井左近、小島美之作、横田河内、右人数丈ヶ西氏隠居ニ而参会相催候様相談取極メ居候処、河原林彦三郎入来。早速ニ廻状為相認メ、則右之参会、明廿二日、将又五ヶ村参会。是又廿三日大野村取締所ニ而相催申候間、此廻状廿二通西氏ハ村々廻達之約定ニ而、彼是夜五ツ時右兩人帰宅之事。

廿二日。中天气。早朝拙者取締所罷出、色々相談取極メ置、四ツ時ハ中江村西隠居江神社之参会ニ出張。横田氏屋後八ツ時ニ出席。外ハ皆く打揃、夫ハ一統神社之次第種々示談。此度ハ山国八ヶ村之神社末社小社至迄、先々是迄之通りニ而書認、尤銘々鎮寿、是又委細書出し銘々名前相記し書出し可申約定、尚明日中篤与(虫クイ)□□調被下、来ル廿四日、五日両日之内ニハ鳥居氏、横田氏、西氏上京可被成下様相頼、相談取極メ、夕方ハ大雨風ニ而困リ、彼是致候処へ京都ハ飛脚床市之助御帰リ、則西氏へ立寄皆々夜五ツ時ハ皆く帰宅相訳連申候事。

廿三日。雨降り天气。早朝を取締役所江罷出候。彼是拵居候処、下村々追々出席。則小源太、長兵衛、彦七、恵次郎、又宗十郎、喜平次、彦三郎、比賀江村佐五郎、中江村善五郎、伊助、辻村佐兵衛、下村横田氏、新助、右之衆中、此度新ニ取締所之義相渡、尚又役方之儀取極、将又村々役人出願之節振合之義取定、一統相談之上承知趣ニ而御制札板京都ニ而買求可申約定。則寸法ヲ取、尚

明日野尻氏上京ニ付相頼可申事。皆々七ツ半時ニ引取、尚銘々彼是与夜五ツ時帰宅之事。

薩州藩丹後生野銀山掛り役

杉田主税様下役

菊地善三郎殿

後藤鑑二郎殿

廿四日。上々天氣。早朝御制札板買求之儀ニ付、野尻彦七上京。右板ニ付相談有之候得共、何分板之義故、別段六ヶ敷次第無之候故、右同人へ相頼、夫々灰屋谷栃之木山積

長州陣宮馬路役所重役長州河内山半吾殿を被仰渡候、山国組取締役被仰付、依之触書之写

覚

河原林小源太

河原林庄五郎

如何様共返答可致様、野尻氏、西氏を伝言。喜間太承リ帰宅之事。但夕方下村横田氏入来。尤河惠公宅ニ而河藤銀談。京都を馬嶋氏入来之次第、尤同家ニ而御咄し有之。夫々役所へ参り暫時居早々帰宅之事。

右兩人

長州陣宮馬路役所江出勤被仰付候間、此段村々江申達候事

候事

山国大野村

取締場所新ニ考ケ所出来候

廿六日。雨天。役所へ朝五ツ時出勤。則井戸村清助を買求候鱧老疋持帰り候。尤昼飯ニ皆々賞翫致ス。則彦三郎午四ツ時々手伝ニ入来。尚又終日手伝之事。其夜止宿之

右之場所江万端可申出候、大野村を長州陣宮馬路役所江取次候間、此段相心得候様申達候事

但山国五ヶ村内を老人ツゞ月替交代出勤為致候間、
此段相心得可申候

閏四月

大野村
取締場所

長州陣營

前同断右山国組拾ヶ村

辰閏四月十八日

馬路役所印

右村々

庄屋
方へ
年寄

瀧村、下村、辻村、中江村、比賀江村、大野村、芹生
村、初川村、片波村、灰屋村、広河原村、田土村、庄
田村

右村々

山国組村々御高附

庄屋
方へ
年寄

急々順達、尤留村々返却可致事

覚

一 今般御制札書替可遣候間、古制札板急々持参可致候
事

山国

- 一 高四拾九石六斗八升貳合五夕 瀧村
- 一 高三百九拾九石壹斗壹合八夕 下村
- 一 貳百六拾石九斗貳升貳合三夕 辻村
- 一 貳百五拾石壹斗貳升壹合 中江村
- 一 四拾貳石壹斗八升七合五夕 比賀江村
- 一 三百三拾九石貳升壹合九夕 大野村
- 一 拾五石四斗八升七合 芹生村
- 一 貳拾八石七斗壹升貳合九夕 初川村
- 一 貳拾三石三斗貳升三合 片波村

一〇三拾九石六斗七升六合 灰屋村

一〇八拾九石三斗式升式合五夕 広河原村

一〇百三拾壹石式斗四升式合 田土村

一高五拾七石九斗五升五合 庄田村

高合千七百貳拾六石七斗五升五合四夕

之外ニ

一高 神吉上村

〃 和田村

右村数合拾五村也

太政官ニテ常照寺ト山国塔ノ邑中ト出入ニ附常照寺請

書写

御請書

常照寺

役者江

其方未寺三明庵儀、不律脱走ニ及候始末、本末之間柄
不存知趣申張、且同寺^(往)転位期延之儀、担家中^(禮)申出候処、

同邑文左衛門ヨリ^(往)転位相願候由ヲ以、勝手儘ニ取斗相

改、元来担家之不熟ヲ不相糺、^(致)輕忽之被方甚以不束之

至ニ付、自来其寺ヨリ^(禮)担家江対シ新規新法杯決而不相

立、万端仕来通り処置可被遣候、附テハ其寺ニ於而取

替之官金之儀精々有赦可被候。^(禮)尤寺担之間柄、以後水

魚之因ヲ成シ、聊不帰依不申之様願人之者共江謝熟可

^(致)被旨和談之上者早々可申出候事

四月

右被仰渡之趣難有奉得其意候、依而御書^(下上)請奉差上候、

以上

辰四月

常照寺役者

瑞泉菴

靈岩寺

寺院掛御役所

水口備前守京都ニテ養生所処書夷川新町東ニ入藤音卜
申処ニ罷在候事

長州陣營馬路役所詰馬路村之郷土衆中役附名前書左之

通記ス

参謀
軍事兼

中川武祐

人見立之進

人見嘉平次

中川録左衛門

人見藤九郎

人見勝次

中川与三郎

輜重

作事兼

(虫ク) □帶

学林

中川浅次郎

人見勝二郎

中川慶輔

中川太郎兵衛

人見七之輔

會計

人見後治

人見太郎次

中川与輔

人見彦市

書記

人見主殿

中川兵馬

中川新七郎

中川四方六

中川昌治

中川熊太郎

表取次詰

人見七次郎

中川久次郎

中川勘次

中川順六

中川 勇

中川清治

中川秀之輔

右参謀、書記、表取次方三役者人ツム合三人ツム日勤
毎朝六ツ半時各々出仕之事

中川丑之輔

右式人宛交代之事

人見才輔

中川寿太郎

泊り番

人見寛輔

人見吉太郎

中川定次郎

人見弥輔

中川又五郎

人見利三郎

人見丹治

中川小吉

人見小右衛門

中川利之輔

中川喜六

中川増太郎

正月十二日

覚

一入^⑤金五拾三両三歩

^{相隣}大和守持参分

一入^⑤銀六百壹文

^{相隣}右同人持参分

一^⑤拾貳文

〈私〉

五本森様へ参詣さいせん

一^⑤拾貳文

〈私〉

一宮大明神へ参詣さいせん

十三日

一^⑤金壹朱

〈私〉

梅ヶ畑平岡村おたね小児へ心付

一^⑤五兩貳歩

〈惣〉

御室木^{（まご）}こ屋一繕払分金扣

一^⑤錢拾貳文

〈私〉

北野天満宮参詣さいせん

十四日

一 金壹兩

〈別〉

材木屋小市郎小遣イ相渡ス^⑤

十五日

- 一 金貳兩貳朱 〔買〕 木場淺次郎槍老本代相渡ス
- 一 錢百文 〔惣〕 伏見ニ而出雜魚老合代払
- 一 三拾貳文 〔私〕 舟中平方小遣入用
- 十六日
- 一 金貳朱分 〔商〕 西右内、勢太
- 一 貳百文 〔商〕 大坂ニ而下駄代扣へかし
- 一 金壹朱 〔商〕 西勢大御守入袋代扣へかし
- 一 錢百文 〔私〕 髪月代老ッ代払
- 一 貳百文 〔商〕 鳥居氏下駄代端錢扣へかし
- 十六日
- 一 金三朱分 〔買〕 大和守下駄老足代払分相渡高
- 一 鈎り老貫文 〔買〕 ⑩河原林民部下駄老足代扣へ
- 一 金壹朱分 〔私〕 湯錢入用払
- 一 貳百文 〔私〕 西右内下駄貳色々扣へ分受取
- 一 金貳朱 〔惣〕 家来笠貳ッ分佐市へ相渡扣へ
- 一 鈎り錢百文戻り 〔惣〕 鉄火味噌老丸代払扣へ
- 一 金壹朱 〔惣〕 鈎り百文戻り
- 一 錢百文 〔惣〕 高津宮小休茶料扣へ
- 一 三文 〔私〕 御宮様さいせん
- 一 貳百文 〔商〕 鳥居氏下駄代扣分受取入
- 一 貳百文 〔商〕 西右内あんま代扣へかし
- 一 貳百文 〔商〕 井上省吾同前あんま代扣へかし
- 一 百文 〔惣〕 直し代払
- 一 金貳朱 〔惣〕 家来弁当袋代扣へ栄次郎へ相渡ス
- 一 鈎り三百文戻り入 〔惣〕 荷物括りひも纏代周吉渡し扣
- 一 錢三百文 〔惣〕 酒肴直し代扣へ一旅之分入用
- 一 金貳朱 〔惣〕 懷中茶入物代西右内へ相渡ス
- 一 金貳朱 〔借〕 河原林播摩西丹波行ニ付請取入
- 一 金八兩 〔借〕 池田松尾屋ニ而中飯肴酒代扣
- 一 金壹步三朱 〔惣〕 池田松尾屋ニ而中飯肴酒代扣
- 一 金八兩 〔借〕 池田松尾屋ニ而中飯肴酒代扣
- 一 金壹步三朱 〔惣〕 池田松尾屋ニ而中飯肴酒代扣

『河原林安左衛門日記』(一)

一〇〃 〃 〇 銀三百文	〇 〃 〃 〇 三拾弍文	一〇 〃 〃 〇 銀四百文	一〇〃 〃 〃 〇 〃 〃 拾文	一〇〃 〃 〃 十九日	一〇〃 〃 〃 〇 金壹兩壹歩	一〇〃 〃 〃 〇 金壹朱	一〇〃 〃 〃 〇 金壹歩	一〇〃 〃 〃 〇 金壹歩	一〇〃 〃 〃 〇 鈎り三百文	一〇〃 〃 〃 〇 鈎り四百廿弍文	一〇〃 〃 〃 〇 鈎り三百文	一〇〃 〃 〃 〇 鈎り三百文
<西山>	<惣>	<惣>	<私>	<私>	<ソ>	<ソ>	<ソ>	<ソ>	<山口>	<同>	<忠三>	<ソ>
皆々 糒茶料共西山氏扣へ	道筋みかん茶代共皆々分扣へ	吉川村ニ而茶代入用小揚ヶ代弍百文相渡ス、但弍百文柴治扣	妙見宮参詣ニ而さいせん入用	野間成亥屋ニ而泊り代八人分払扣へ	同所茶料扣へ	丹波羽風中飯代、八人分三ツ弍百五拾文代、内金壹歩江口扣へ、金弍朱西山扣へ	野間村々羽風迄人足者人代渡扣へ	弁当濟、雑魚壹升代七百七拾五文	中久保忠三郎扣へ、右同人へ鈎り入ル	野間村々須知迄茶代兩度分扣へ	野間村々須知迄茶代兩度分扣へ	野間村々須知迄茶代兩度分扣へ
一〇〃 〃 〃 〇 金壹朱	一〇〃 〃 〃 〇 札壹兩三分	一〇〃 〃 〃 〇 〃 〃 三分	一〇 〃 〃 〃 〇 金壹朱	一〇 〃 〃 〃 〇 金壹兩壹歩	一〇 〃 〃 〃 〇 〃 〃 〃 弍	一〇 〃 〃 〃 〇 〃 〃 〃 弍	一〇 〃 〃 〃 〇 〃 〃 〃 弍	一〇 〃 〃 〃 〇 〃 〃 〃 弍	一〇 〃 〃 〃 〇 鈎り三百八文取入	一〇 〃 〃 〃 〇 鈎り三百五拾文	一〇 〃 〃 〃 〇 札五分	一〇 〃 〃 〃 〇 金壹兩
<ソ>	<借>	<忠三私>	<ソ>	<惣>	<忠三私>	<忠三私>	<忠三私>	<忠三私>	<西山>	<ソ>	<ソ>	<ソ>
周吉腰帯代相渡ス	西山氏々預り入り	きせる羅を直し代忠三郎扣へ	須知水戸屋茶料扣へ	同所泊り八人	此払内金壹歩江口扣へ	須知々八木迄兩度茶料	下駄直し代払、忠三郎扣へ	八木角屋中飯代西山扣へ入用	連中わらし三足代払扣へ	原村茶代入用	嵯峨菊屋泊り八人代払扣へ	同所茶料入用扣へ
御室小休ニ而茶料入用扣へ												

廿八日

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

河原林忠次郎髮月代扣賃

一〇〇〇〇〇〇〇

髮月代忝ッ代払入用

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

髮月代忝ッ代扣へ払

一〇〇〇〇〇〇〇

湯錢入用

廿三日

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

□釣り者足代西右扣へ

一〇〇〇〇〇〇〇

材木屋小市郎内小遣イ相渡ス

廿五日

一金沓朱

〇

湯屋祝儀遣入用

一〇〇〇〇〇〇〇

服部屋高袴沓足代、夫彦三郎相渡ス

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

湯錢入用

一金沓兩

〇

材木屋小市ちばん代相渡ス

一〇〇〇〇〇〇〇

湯錢入用

廿七日

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

伊勢長之内直次郎江年玉遣ス

一〇〇〇〇〇〇〇

遠眼金沓本代おかねへ預ケ渡ス

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

服部屋高待沓足代手付金相渡ス

一〇〇〇〇〇〇〇

腰差下ケ綱沓代払渡ス

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

谷尾仙吉ニ而目實代相渡ス、金唐志之代

一〇〇〇〇〇〇〇

妙見宮様御さいせん入用

一金式歩

〇

材木屋小市之内亀次郎へ年玉ニ而遣ス、入用

一〇〇〇〇〇〇〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

木場浅次郎差添沓本檀沓本代留主中ニ而皆々へ相渡ス

一〇〇〇〇〇〇〇

髮月代忝ッ代払

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

〇

湯錢入用

一〇〇〇〇〇〇〇

湯錢入用

『河原林安左衛門日記』(一)

- 一〇〃式百六拾八文 〈ソ〉
わらじ式足代払渡ス、半方分
西氏分扣へ
- 一〇金式歩 家来周吉取替かし
- 一〇〃式拾四文 〈私〉
堂之庭茶代払
- 一〇金壹朱 〃〃 〈西〉
まんぢう代土産物代西氏扣へ
- 七日 馬路出張ニ付中飯、宮辻茶代
入用
- 一〇錢百文 〈私〉
湯錢入用
- 十日 湯錢入用
- 一〇〃式拾四文 〈私〉
髪月代壹ツ代払、西山氏方か
り渡ス
- 十一日 湯錢入用
- 一〇〃百文 〈西山〉
髪月代壹ツ代払、西山氏方か
り渡ス
- 十二日 一〇金三兩 〈五ヶ〉
但金四兩西山氏へ相渡ス
内金壹兩戻り入引
改金三兩
河内山半吾、〇山国御林見分
ニ付買物代之内善五郎へ相渡
扣へ
- 十三日 一〇金壹朱分 〈私〉
花合五人組上入り
- 十四日 一〇〃式百文 〈私〉
花合五人組上入り
- 一〇錢式拾八文 〈私〉
きせる羅をこけ替老本代払
- 一〇〃式拾四文 〈私〉
湯錢入用
- 二月十四日 一〇金式歩三朱 〈買〉
井筒屋弥兵衛、イカタクスリ
入モノ代払
- 十五日 一〇金壹朱 〃〃 〈買〉
たばこ入認代、色々払渡ス
- 一〇〃金壹朱 〇釣り百文戻り入
- 一〇〃錢式拾四文 〈私〉
天満宮様参詣御さいせん入用
- 十六日 一〇金式朱 〃〃 〈ソ〉
江戸ぞうに代扣へ、西山、河
彦、河喜、河大、為吉分扣払
- 一〇〃釣り式百五拾文取入
- 十七日 一〇錢百式拾四文 〈私〉
髪月代湯錢代入用
- 十八日 一〇金式朱 〃〃 〈私〉
鳥居氏よりこう勝分受取入
- 一〇金式歩 〃〃 〈買〉
小林喜間大殿遺上菓子代入用
- 一〇〃拾兩 〃〃 〈借〉
小島平八郎当座借用入り
- 一〇金式歩壹朱分 〃〃 〈西〉
北野清山ニ而酒肴代扣へ、鳥
居、西右、河大三人分扣へ、鳥
三百文西扣へ
- 〇三百文 〃〃 〈私〉
〇三百文

一入⑤金三兩 〈私〉

小林喜間太年賦金之内寅年分都合金五兩入

一⑥金三朱 〈五ヶ〉

高嶋助太夫小鮎沓籠遣上代私

廿一日

晦日

一⑦金八兩 〈八ヶ〉即

若代四郎左衛門利足金三拾兩之内半分扣へ相渡ス

一金六兩 〈別〉

材木屋小市入用分相渡ス

一⑧金三歩三朱

高瀬沢甚夕飯酒肴代四人分、河大、河民、林喜、西右分扣へ相渡ス

一⑨錢百貳拾四文 〈私〉

髪月代湯錢入用

一⑩金壹朱

煎からくじら代惣入用分扣へ、樹源内林喜ニ渡ス

一⑪八文 〈私〉

帰宅之節地藏さまさいせん

廿三日

二日

一金壹兩 〈別〉

材木屋おかね殿へ小遣イ分相渡ス

一⑫金拾兩

林町仙藏江当座かし渡ス、但在宅ニ而

廿四日

十六日

一⑬錢百三拾六文 〈私〉

髪月代沓湯錢共入用

一入⑭金拾兩

右同人より戻り請取入り

廿六日

一⑮金拾沓兩沓朱分

仲ケ間惣入用分

一△貳百文

河原林喜間太遣スかし

銀札貳匁五分

但□□往來の用茶料

廿八日

又外ニ金八兩

八ヶ村名主中分別口扣分有

一⑯金壹朱

身くじら代私惣用扣へ

又外ニ金三兩三朱

五ヶ村用之分扣分高

廿八日

又外ニ金壹朱分

連中江取替貸分高

一⑰錢貳拾四文 〈私〉

湯錢入用

又外ニ凡金壹歩

墨沓丁扣分也

廿九日

一⑱外ニ金拾兩貳歩朱

別口へ扣高

『河原林安左衛門日記』(一)

- 元持參入金分
 〆金ハ拾五兩式朱 惣持參入高
 此処江出金分
 〆金五拾六兩考歩老朱 惣出高
 差引
 金式拾八兩三步考朱 差引之処
 改
 金三拾貳兩考朱 改儲有
 差引
 金三兩考歩 差引返上也
 三月廿五日
 一〇金貳兩 〈私〉
 河原林内々此表馬路行ニ付入
 廿六日
 一〇金考歩老朱 〈買〉
 馬路ニ而竹之子貳貫三百目代
 払渡ス
 預り札式拾三匁八分 戻り入り
 一〇金貳兩
 釣り札五匁七分 戻り入り
 廿八日
 元持參入分
 四貫四百六拾七文入高
 此処江出分
 〆四貫七拾三文 惣出高
 差引
 三百九拾文 差引之処
 改
 貳百八拾五文 改儲有
 差引
 百五文 差引不足之事
 河原林内々此表馬路行ニ付入
 一〇式拾六匁 〈買〉
 小傘考本代払渡ス
 〆考匁 〈私〉
 右使小いし駄賃遣ス入用
 四月朔日
 一〇金拾兩〇〇 〈山林〉
 野上与兵衛当座借用入り〇
 二日
 一〇金五拾兩〇〇 〈山林〉
 油屋店方々此表へ借用入り〇
 但しおはつ預ケ之分
 一〇金五兩〇〇 〈山林〉
 河原林台所々此表へ借用入り〇
 四日
 一〇金式拾兩〇〇 〈山林〉
 林町仙藏より馬路市太ニ手付
 分受取入〇
 一〇金式朱分 〈買〉
 小傘考本代払渡ス、夫弥吉
 〇〇札式匁七分
 一〇金三百廿四文〈山林〉
 水尾村中飯之節
 釣り銭此表へ入〇
 〆〆百文 〈私〉
 嵯峨ときわニ而わらじ茶代入
 〆〆式拾四文 〈私〉
 湯錢入用
 五日
 一〇金三朱 〈買〉
 紺足袋考足代払
 〇〇釣り百六拾四文戻り入

一〇金三朱 〔買〕

上下駄老足代払
但丹新分払渡ス

九日 〔朱〕

河原林又蔵へ則屯所ニ而かし

一〇金貳兩 〔買〕

谷尾卯兵衛弘分之内相渡ス

一〇金老歩貳朱 〔買〕

右同所古較大之分老ツ代払預
ケ申候事

一〇金老歩 〔朱〕

河原林喜間太へ小遣イかし

一〇金貳兩貳歩貳朱 〔買〕

福林割羽織貳枚分代相渡ス

六日

一〇金貳兩 〔朱〕

屯所入用上茶代扣へ払
下長者町屯所西山彦二郎家賃
扣へ相渡ス

一〇金老兩貳歩 〔買〕

美濃屋幸助筒棟貳枚代払

一〇金貳拾四文 〔私〕

湯錢入用

一〇金貳兩貳朱 〔借金〕

大布施文右衛門世話料證文料
相渡ス

十日 〔朱〕

真弓弥三郎より炭拾三俵駄賃
相渡ス扣分戻り入

一入〇貳百兩 〔借金〕

右同人方請取入り

一〇金老歩貳朱 〔惣〕

伊藤源助面会ニ付遣上菓子代
払扣へ

一〇老兩 〔借金〕

右同人之内過上分別ニ受取入
り

四月六日

十一日 〔朱〕

河原林松太郎下長者町屯所ニ
而取替かし

一〇金貳朱分 〔買〕

白砂糖老斤代払相渡ス

一〇金貳式歩 〔惣〕

下屯所揚昆布代払

一〇金老兩老歩三朱 〔別〕

唐さらし老疋代払渡ス

一〇金老兩老歩三朱 〔私〕

髪月代老ツ代払

八日

一〇錢百文 〔山林〕

山林ニ付願書紙七枚代払

一〇錢百文 〔私〕

榊源内喜間太割羽織代繁次郎
へ相渡ス

一〇金三歩老朱 〔買〕

榊屋源兵衛内買物代払渡

一〇金老兩老歩三朱 〔惣〕

榊源内喜間太割羽織代繁次郎
へ相渡ス

『河原林安左衛門日記』(一)

- 一入^①金貳拾兩^②考步^③式朱^④ 〈山林〉
馬場畑御林山山代金借用預り、
分之内相渡ス、残り此表入ル、
但し角吉改メ申候也^⑤
- 十二日
一^⑥錢拾八文 〈私〉
天満宮參詣ニ付さいせん入用
一^⑦〃百貳拾四文 〈私〉
字類免五枚代払
一^⑧金壹朱 〈私〉
錢兩替ニ而相渡ス
- 四月十二日
一入^⑨錢六百貳拾四文 〈私〉
右兩替ニ而請取入り
一^⑩〃百七拾四文 〈買〉
下駄羽入考足代払
一^⑪金壹朱分 〈惣〉
嵯峨仲屋小兵衛ノ千把拾四朱
⑫^⑬〃百五拾文
駄賃扣へ相渡ス
- 十三日
一^⑭金三兩 ⑮^⑯ ⑰^⑱
河原林喜間太芸古道具考組代
江口氏へ返済分渡ス
- 一^⑲錢貳拾四文 〈私〉
湯錢入用払
- 十四日
一^⑳金貳步 〈内買〉
亡父廿五回忌ニ付志白砂糖代
相渡シ置
- 一^㉑金壹兩三朱 〈買〉
波力釣り考筋 同帯ノ考筋代
払
- 一^㉒金貳兩 ⑳^㉓ ㉔^㉕
谷尾卯兵衛刀金具五ツ分代渡
ス
- 一^㉖金三歩三朱 〈惣〉
步操新式五冊、小式冊代払相
渡ス
- 十五日
一^㉗錢四拾八文 〈私〉
揚昆布代払入用
- 十六日
一^㉘〃三文 〈私〉
乃里代払入用
- 十八日
一^㉙〃貳拾四文 〈私〉
揚昆布代払
- 十九日
一金貳拾六兩 〈別〉
材木屋小市内ニ而返済ふとん
代之分相渡申置候^㉚
- 一^㉛金壹步 〈内買〉
ちり紙式束斗代払為吉へ相渡
ス
- 一^㉜錢八文 〈私〉
鳴之堂地蔵尊さいせん入用
- 廿日
一^㉝金貳朱 〈山林〉
馬路人見小弥太、七之助ノ飛
脚手紙、尤御林山代金之義ニ
付右飛脚へ相渡申候
- 廿五日
一^㉞金貳百兩 〈山林〉
御林馬場ヶ畑山山代金之内扣

一〇〇 錢四拾八文 〈私〉

一〇〇 〃 式拾四文 〈私〉

四月廿六日

一〇〇 金五拾兩壹步 〈山林〉

御林馬場ヶ畑山代入用之内扣
都合金式百五十兩壹步也
出ス

一〇〇 〃 錢四拾八文 〈私〉

こう茶式枚代、河内山氏ニ而
買入用

一〇〇 〃 金壹步壹朱 〈買〉

三条ニ而傘壹本代払入用

廿八日

一〇〇 〃 金壹朱 〈買〉

国元菓子代入用分為吉江相渡
ス

一〇〇 〃 〃 錢三拾五文 〈私〉

昆布揚代払入用

一〇〇 〃 〃 三拾六文 〈私〉

湯錢袋代入用

廿九日

一入 金拾七兩貳步

西善五郎江本代家賃之分へ相
渡ス扣へかし

〈此内金四兩屯所家賃分扣へ
金拾三兩貳步本代扣へ〉

一〇〇 〃 〃 金壹朱 〈私〉

錢兩替相渡ス

一〇〇 〃 〃 錢貳拾四文 〈私〉

天満宮參詣ニ付さいせん入用

一〇〇 〃 〃 四拾文 〈私〉

一〇〇 〃 〃 拾貳文 〈私〉

閏四月朔日

一〇〇 〃 〃 金壹朱

廿九日分

一入 〇〇 〃 錢六百四拾文 〈私〉

右京都ニ而錢兩替之分受取此
表入

一〇〇 〃 〃 百五拾文 〈買〉

打認大小式筋代払渡ス

閏四月七日

一〇〇 〃 〃 百貳拾四文 〈私〉

髪月代湯錢入用

八日

一〇〇 〃 〃 金貳朱分 〈買〉

太政官日誌本拾壹冊代払渡ス

一〇〇 〃 〃 〃 五拾文

近利染物色々代払渡ス

一〇〇 〃 〃 〃 金三歩 〈買〉

一〇〇 〃 〃 〃 金貳步三朱 〈買〉

紺芸古地番壹ツ代払

一〇〇 〃 〃 〃 錢貳拾四文 〈私〉

湯錢入用

一〇〇 〃 〃 〃 金壹朱分 〈内買〉

黒砂糖壹斤代払相渡ス内入用

一〇〇 〃 〃 〃 百貳拾四文

『河原林安左衛門日記』(一)

- 九日
 一 金壹朱 <買>
 子供土産ぞうり式足代払
 一 金壹朱 <私>
 錢兩替ニ而相渡ス
 一 銀錢六百廿壹文 <私>
 右兩替ニ而請取入り
 一 銀錢四拾八文 <私>
 河原林喜間太湯錢かし
 十日
 一 金五拾六文 <買>
 きせるらを代替式本代払
 一 銀八文 <私>
 鳴之堂地藏尊さいせん入用
 十二日
 一 金七兩
 三組勘定之節西馬路市太ニ
 而請取預り入り
 十三日
 一 銀錢四拾八文 <私>
 清瀧榭屋ニ而畑菓子代払
 一 銀式拾四文 <私>
 湯錢入用
 一 銀百文 <私>
 髮月代卷ツ代払
 一 銀百文 <私>
 揚昆布代払
 一 金壹朱 <私>
 腰さけ紐式尺代払
 一 金壹朱 <買>
 手机布代分榭源取次相渡払
 十五日
 一 金壹朱 <私>
 錢兩替分相渡ス
 一 銀錢六百三拾式文 <私>
 右兩替ニ而請取入
 一 金式步 <私>
 河原林喜間、太京都小遣イ相渡
 一 金壹朱 <山林>
 水尾村ニ而中飯濟入用三人分
 一 銀錢七拾文 <私>
 上嵯峨ニ而わらじ卷足代払
 一 式步 <五ヶ>
 馬路市場屋ニ而淨留理謝礼五
 ヶ村分扣へ相渡ス
 閏四月十六日
 一 金壹步式朱 <役>
 役所詰ニ付下駄式足たはこ卷
 一 銀釣り札五匁戻り入用 <役>
 玉半紙五折藤長払扣へ
 一 金式步式朱 <買>
 龜山榭屋帶卷筋代払相渡ス
 一 金壹步 <役組>
 馬路、京都迄飛脚賃太兵衛へ
 一 金拾兩 <買>
 馬路役所ニ而刀卷腰代河内山
 氏へ相渡ス

△金拾五兩

⑧

河原林庄五郎、右同断卷腰代
払分扣へかし

一〇金壹兩

〈買〉

龜山榎屋買物代之内相渡申候

一〇〇錢百文

〈私〉

神吉村わらじ代茶代共戻り入
用

一入⑨金貳拾貳兩壹歩

山
林

馬場畑袖えご山手金造用差引
残り分此表へ入り

△式口合金四拾貳兩貳分三朱入高

〃廿五日

一〇金壹兩三朱

買

京都下村利助黒みつ林羽織卷
ツ代在宅ニ而手代相渡ス

△入金分

〃金三百三拾七兩三歩壹朱

惣口ニ入金高

又外ニ元金三拾貳兩壹朱

元金〇〇〇改有高

合金三百六拾九兩三歩貳朱

惣合高

此処江出金分

〃金三百五拾三兩貳歩三朱

惣口ニ出金高

差引金拾六兩〇三朱

差引之処

此処改金拾八兩〇三朱

差引改髓ニ有也

差引金貳兩也

差引金過上ニ成、但吟味致ス
事

錢入分

〃錢三貫五百拾三文

惣口ニ入錢高

又外ニ元貳百八拾壹文

元改有高

合錢三貫七百九拾四文

惣高

銀札三拾四匁七分

此処江出錢分

〃錢三貫百三拾五文分

惣口ニ出高

銀札貳拾九匁七分

差引錢六百五拾九文

差引之処

銀札五匁

此処江改錢七百貳拾七文

改髓ニ有也

此内 札五匁

廿四文、壹文有、拾六文、貳拾四文有

拾貳文、三拾文有、此代錢改八百文也

さし引 六拾四文 差引過上ニ成也

改錢壹貫百貳拾七文 改有也 吟味致候事

銀札五匁

(裏表紙)

丹波桑田郡山国社司
河原林大和守